

大阪市立自然史博物館館報

27

(平成13年度)

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成15年3月31日発行

目 次

巻頭言「新収蔵庫の完成と標本資料」	藤井伸二	1
展 覧 事 業		3
調 査 研 究 事 業		12
資料収集保管事業		19
普 及 教 育 事 業		27
環瀬戸内地域（中国・四国地方） 自然史系博物館ネットワーク推進協議会事業		36
デジタルミュージアムの推進事業		37
庶 務		38

新収蔵庫の完成と標本資料

藤井伸二（大阪市立自然史博物館主任学芸員）

大阪市立自然史博物館では、現在100万点を超える標本資料を収蔵しており、調査研究や展示に活用している。事業拡充を目的に計画・建設を進めてきた新収蔵庫が2001年4月に「花と緑と自然の情報センター」の地下部分に完成した。その後、約1年をかけて標本資料の移動を行い、2002年3月末には大部分の標本資料が新収蔵庫に収められ、整理作業が進んでいる。

標本資料と博物館の社会的役割：標本資料の収集・整理・保管事業は、博物館のみならず、ひろく大学や各種研究機関あるいは個人研究者の研究・教育活動を支えている。とくに、地域博物館で収集・保管されている標本資料は、在野の研究者にとって欠くことのできない研究資料であり、科学・文化を資料面から支える機能を有する。また、絶滅危惧生物のリスト（レッドデータブック）作成において、地域博物館の標本資料が果たす役割は計り知れない。さらに、近年はデータベース化が進むことで、標本資料がもつ情報の活用範囲がひろがり、その重要性が再認識されている。

一方、標本資料をとりまく現状は厳しい。一例を挙げると、これまで大学の研究室や研究所には、研究資料として膨大な標本資料が蓄積されていたが、整理・保管に関しては放置されてきたに等しい。ようやく近年になって、分散放置されていた標本資料の活用をめざして、多くの大学博物館の構想や建設が進んでいる。その背景には、標本の維持管理を個々の研究所や研究室で行うことの負担があまりにも大きいことがある。それだけに、標本資料の収集・整理・保管事業は、博物館の重要な社会的責務である。

標本資料は活用してこそ、多大のコストをかけて収集・整理・保存する意義がある。しかし、活用がただちにされるとは限らない。100年後かも知れないし、500年後のことになるかも知れない。また、標本資料の価値は、後年の研究によって倍加することもある。実際、江戸時代に収集されたシーボルト標本がヨーロッパの博物館施設に保存され、日本の分類学研究の材料として活用され、現在も新たな発見がなされている。また、収集したものを後世に遺すことは、研究上のみの意義にとどまらない。過去に収集・保存された標本しか残っていないニホンオオカミはその例であろう。当館には、マダラナニワトンボやヨドシロヘリハンミョウをはじめとした、大阪から絶滅した生物の標本資料が多く保存されており、これらの標本を後世に伝えることは、博物館の使命である。

大阪市立自然史博物館の標本資料の収集：小学校を改装した旧博物館から現在の長居公園に移転したのは1974年で、このときに収蔵庫（標本資料の保管室）をともなった待望の博物館建築物を得たことになる。当時（1975年度末の時点）の標本資料は30万点弱であったが、収蔵庫設置がその後の収集事業の拡大を可能にし、100万点を保有するに至った（図1）。平均して年2～3万点もの標本を収集しており、当館の誇るべき実績の一つである。これらの標本資料は、館員の努力と在野の研究者の協力により、整理と研究が進められてきた。その成果は、様々な形で公表されている。なかでも、海産動物（大阪湾岸の海産生物、ウミユリ類、魚類）、昆虫類（オサムシ類、ネクイハムシ類、トンボ類、直翅類）、植物（藻類、苔類、シダ類、水草、大阪府産植物）、古生物（貝類化石、昆虫化石）などは、標本資料の整理と研究活用が一体的に進められた例である。

収蔵スペースの拡充：標本資料を活用するには、それらがきちんと整理されていることが必要だ。ダンボール箱に入ったままで山積みされているのでは、その資料価値はないに等しい。このことは、図書館での書籍を思い浮かべれば理解しやすい。整理に必要なのは、金銭的な裏付けは言うまでもないが、整理作業を行うエキスパートと保管すべき収蔵スペースの二つがとくに重要である。博

博物館の場合、エキスパートに相当するのが学芸員であり、収蔵スペースが収蔵庫である。

過去に収集された標本資料はすべて保存され、そこに新たに収集したものが加わるから、標本資料は増大する一方である。そのため、あらかじめ余裕を持った収蔵面積を確保しておかねばならない。当館では、1974年に総面積724平方メートルの収蔵庫を完成させた（当初30万点弱の標本を収蔵）。その後の資料増加によりさらに310平方メートルを追加したが、70万点を越えた1980年代後半には収蔵スペースが満杯になり、通路等への仮置き状態が頻出した。この結果、整理作業も効率的に行えない状態となり、標本の研究・展示利用にも支障をきたすなど、収蔵庫スペースの問題は博物館活動を進める上で大きな障害となった。そこで、1989年からはじまった将来構想の検討のなかで、収蔵庫増設を重要課題に位置づけて取り組んできた。2001年4月に完成した新収蔵庫によって、この問題が解消されることになったのは、たいへん喜ばしいことである。

新収蔵庫は、面積的には旧収蔵庫の1.7倍程度であるが（表1）、二層化することによって従来の面積に換算すると3倍近くの収蔵スペース増となっている。新収蔵庫の完成で、1）将来の標本増加への対応、2）整理・配架作業の円滑運営、3）それらの結果として標本資料の活用の促進、などが進むことになる。また、新収蔵庫への移転にともない、液浸収蔵庫（液浸標本）／特別収蔵庫（昆虫・植物・動物剥製標本）／一般収蔵庫（動物一般・骨格・古生物・岩石鉱物・土質標本）への3類型化を行い、効率的な標本の管理運営を図っている。

表1. 新旧収蔵庫の面積

旧収蔵庫	面積 (㎡)	新収蔵庫	面積 (㎡)
第1収蔵庫	207	特別収蔵庫	748
第2収蔵庫	310	一般収蔵庫	688
第3収蔵庫	207	液浸収蔵庫	323
第4収蔵庫	310		
合 計	1,037	合 計	1,760 (2層構造)

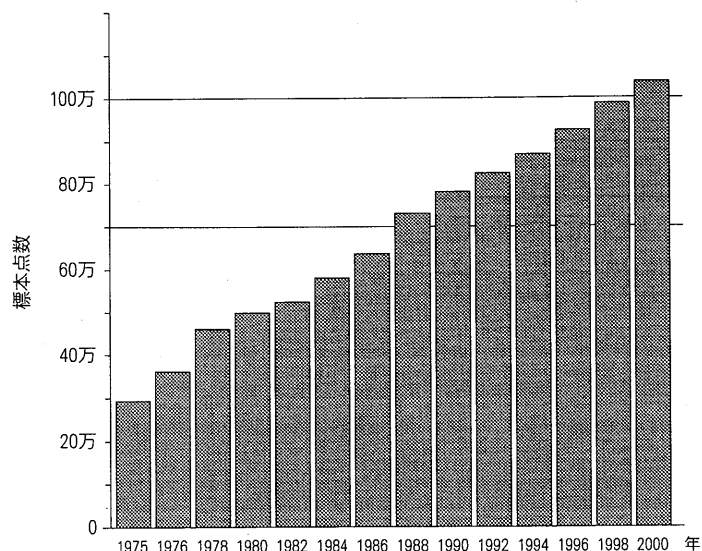


図1. 大阪市立自然史博物館の標本点数の増加

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。平成13年4月に「花と緑と自然の情報センター（略称；情報センター）」がオープンしたことで、常設展示は、旧来の博物館建物（本館と呼称）だけでなく、情報センター1階にも増設され、特別展示は情報センター2階のネイチャーホールで開催されることとなった。

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーによって、組み立てられている。

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。今年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行なっているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施してきたが、今年度は、開催していない。

館外においては、市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、小規模な移動展示を行なっている。

I. 常設展

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、従来「普及センター」に開設されていた学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所にも設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

本館入口のオリエンテーション・ホールでは、上記の基

本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかかわってきたのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、を、象徴的に展示している。

第1展示室「大阪の自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを、述べている。そして第4展示室「自然のめぐみ」では、その生物進化の結果である、豊かな自然のめぐみについて展示し、その自然を、未来にも残さねばならないことを訴えて、締めくくりとしている。

情報センター開設に引き続いて、本館の展示更新が計画されていたが、諸般の事情により、実行に至っていない。「大阪の自然誌」展示室の展示内容は、本館の展示更新と一体の計画で進められたため、現状ではその一部が本館展示室の内容と重複しており、早急な対策を必要としている。

平成13年度には、下記の展示の更改・補修等を行った。

■オリエンテーションホール

●情報端末の設置

情報センターと同様な情報検索などを普及センター前でも行えるよう、情報端末（タッチパネル付き液晶ディスプレイとPC本体2セット）を設置した。

■第1展示室

●「都市の自然」製作委託

情報センター開設に伴い、そこでの展示内容と本館の展示内容（特に第1展示室）に重複が生じており、早急に改善しなければならない。本年度には、「帰化生物」のコーナーを「都市の自然」に変更するため、展示ケースの形状変更を行った。

II. 特別展

(1) 当館が主催した特別展

第28回特別展「50周年だヨ！標本集合！！～自然史博物館のあゆみ～」

昭和25年以来的の長い歴史を持つ大阪市の自然史博物館には、市民・研究者からの寄贈、および博物館みずからの採集、購入などによって収集された現生生物、化石、

岩石・鉱物、地質資料など約100万点もの標本が収蔵されている。それらの一部は常設展示室に陳列されているが、じつはほとんどが収蔵庫に収納されている。自然史博物館の標本は、実物による自然の記録であり、学術研究や教育に役立てるとともに、われわれの共有財産として永久的に保存しなければならないものである。

このたびの「花と緑と自然の情報センター」の建設に伴い、新たな標本収蔵庫約2,000㎡をその地下に設け、より多くの標本を永久的に保存できるように整備したのを機会に、博物館の50年の歩みを振り返りつつ、収蔵標本の全体像を紹介する特別展を企画した。

- 会 期 平成13年 4月27日（金・正午）～
5月27日（日）
- 会 場 自然史博物館特別展示室ネイチャーホール
（花と緑と自然の情報センター 2階）
- 主 催 大阪市立自然史博物館・大阪市教育委員会
- 観 覧 料 大人400円、高校・大学生300円、団体割引あり（博物館本館は別料金）。中学生以下、障害者、市内在住の65歳以上は無料。

● 展示内容

自然史博物館50年のあゆみ

主要館蔵品

花博出展植物コレクション

三木茂コレクション（植物化石）

各種昆虫、貝類、魚類、両生爬虫類、鳥類コレクション

その他化石、岩石・鉱物など

大阪湾に漂着したナガスクジラの骨格標本（全長19m）

ラフेशアの花のレプリカ（直径60cm）、

昆虫の拡大模型

（出品点数1万点以上）



第29回特別展「レッドデータ生物 一失われゆく自然と生きもの」

人類社会の急速な発展の一方で、さまざまな生物種が地球上から姿を消しつつあります。近年、絶滅の背後にある環境破壊や乱獲に対する関心が高まり、社会問題として注目を集めるようになりました。こうした中で、絶滅危惧生物の戸籍簿である「レッドデータブック」が出版されました。驚くべきことに、キキョウやフジバカマ、タガメやメダカなどの絶滅が危惧されています。「生物種の絶滅」が遠く離れた熱帯林や珊瑚礁に限ったことでなく、私たちのごく身近な問題であることが明らかになったのです。

これまで自然史博物館では、豊富な収蔵資料をもとに、各種のレッドデータブックの作成に携わってきました。レッドデータブックが私たちにどのような警鐘をなしているのかを読み解くために、そして今後どのように自然とつきあっていけばいいかを考え直す機会として今回の特別展を企画しました。

この特別展では、「絶滅危惧生物と自然環境」を紹介することで、なぜ人里近くの生き物が絶滅に瀕しているのか、その原因である人間活動との関わりも含めて、自然環境を考えていただければと願っています。自然との共存の問題、ひいては環境問題について考えていただく機会としていただきたいと思います。

- 期 間 8月4日（土）～9月24日（月・振替休日）
- 休 館 日 月曜日（9月24日は開館）
- 会 場 自然史博物館 ネイチャーホール
- 主 催 大阪市立自然史博物館・大阪市教育委員会
- 後 援 環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史博物館ネットワーク推進協議会
- 観 覧 料 大人400円、高校・大学生300円。
- 展示内容

I. はじめに

1. レッドデータってなに？
2. 絶滅の原因

II. 自然環境から見た日本の絶滅危惧生物の現状

1. 森の自然といきもの
2. 草原の自然といきもの
3. 水田の自然といきもの
4. 湿地の自然といきもの
5. 河川の自然といきもの
6. 海浜・干潟の自然といきもの

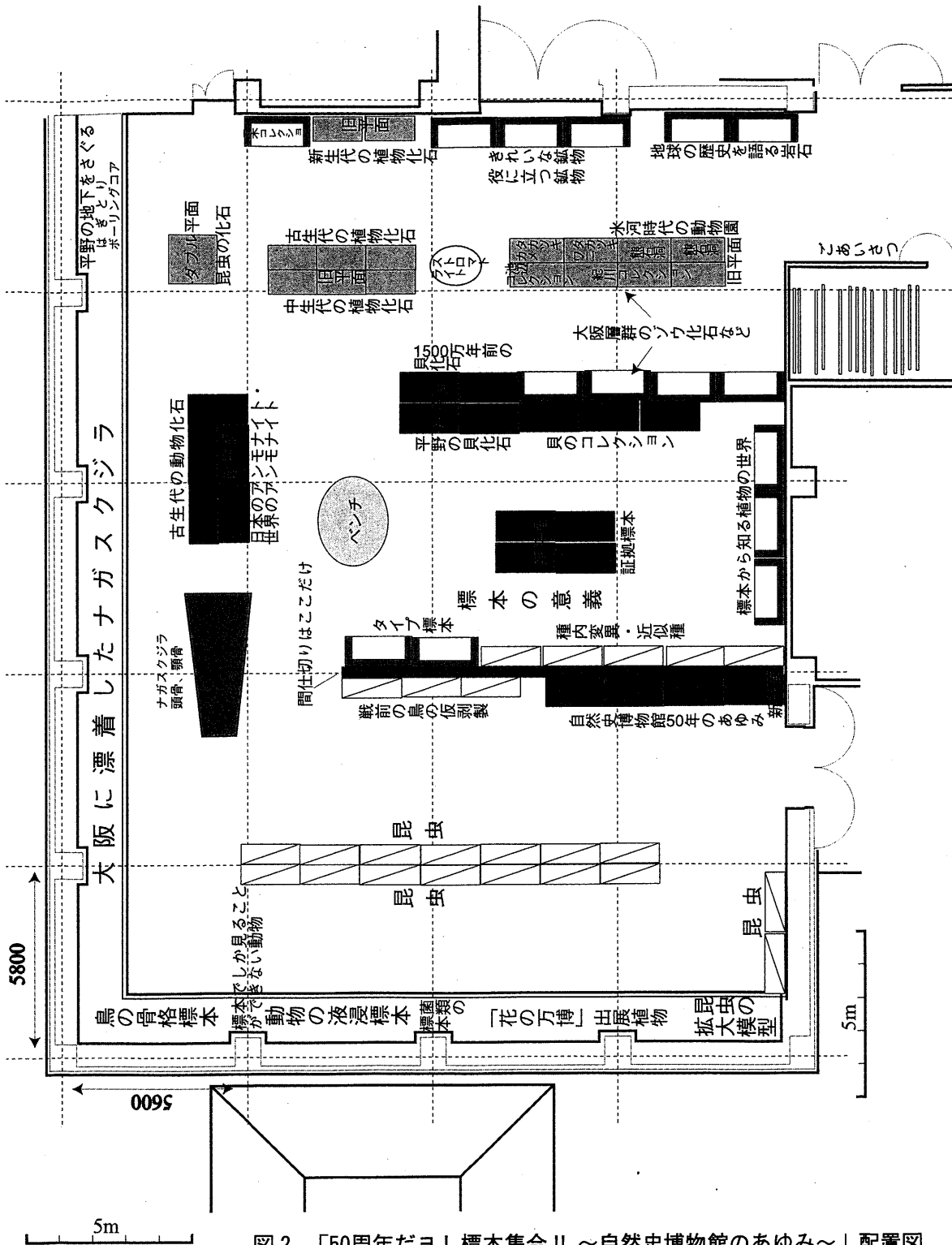


図2. 「50周年だヨ！標本集合！！～自然史博物館のあゆみ～」配置図

7. 珊瑚礁と海草帯のいきもの

8. 島嶼の自然といきもの

III. 世界との関わり

1. ワシントン条約

2. ラムサール条約

3. 熱帯林

4. 紙と北洋林、合版と熱帯林

5. プランテーションと森林伐採

IV. 絶滅危惧生物を守るために

1. インベントリー調査

2. レッドデータブックの作成と利用

3. 標本の意義

4. “地球にあやしい”活動

● 関連事業

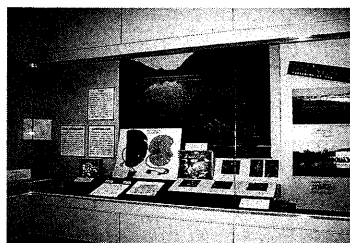
普及講演会「水辺の自然の危機 ―水田とため池の生きもの―」

私たちの身近な環境である水田やため池。これらは人間が造りだした二次的自然ですが、トンボ、カエル、メダカなどの様々な生きものが住みつき、日本の豊かな水辺を象徴する環境です。今、そこにすむ生きものが絶滅の危機に瀕しています。なぜ、彼らが減ってしまったのでしょうか。水辺の自然の現状を知ること、生きものと私たちの関係を見直したいと思います。

・日 時：9月9日（日）午前10時～午後4時

・会 場：自然史博物館講堂

・演題・講師は29ページ参照



第30回特別展「世界の蝶と甲虫 ―岡村 宏―コレクション展―」

大阪工業大学名誉教授の岡村宏一氏が長年にわたって収集された昆虫標本のコレクションが、当館へ寄贈された機会に展示会を開催した。同時に、子ども達に人気の高い、生きた外国の巨大カブトムシ類とクワガタムシ類を展示し、それらの昆虫の生活と保護に関する情報を提供した。

●会 期 平成平成14年3月16日(土)～5月12日(日)

●会 場 自然史博物館特別展示室ネイチャーホール

●主 催 大阪市立自然史博物館・大阪市教育委員会

●観 覧 料 大人400円、高校・大学生300円、団体割引あり（博物館本館は別料金）。中学生以下、障害者、市内在住の65歳以上は無料。

● 展示内容

第一部：巨大昆虫の世界

第二部：岡村宏一コレクション

世界の甲虫（カブトムシ類、クワガタムシ類、オサムシ類）

世界の蝶（アゲハチョウ類、モルフォチョウ類、ツマベニチョウ類）

世界の蛾類（ベニモンマダラ類）など

（出品点数2万点以上）

（2）当館が共催した特別展

本年度は上記の主催展のほか、下記のような当館共催の特別展をおこなった。

特別展「牧野富太郎と植物画展」

日本が世界に誇る植物学者・牧野富太郎博士は、95年の生涯のすべてを植物研究に捧げた。全国の山野でフィールドワークを行い、2,500もの新植物に名前をつけた、日本の「植物学の父」と呼ぶにふさわしい人物である。

牧野博士はまた、植物画の名手でもあった。精密かつ力強い筆使いで、植物の「種」としての典型的表現をめざした図で、その画法は「牧野式」と呼ばれた。植物を最もよく知る植物学者によって描かれた図には、みずみずしい生気が宿り、学術的価値に加えて、美術的にも高く評価されている。

本展では、高知県立牧野植物園が所蔵する牧野博士の植物画をはじめ、博士の植物画コレクションのほか、博士の遺品やエピソードを通じて、牧野富太郎の人間的魅力を紹介した。清貧にあっても自由気ままに植物を愛し

続け、植物研究に一生を捧げた牧野博士の生き方は、現代の私たちに大きな感動を与えてくれるものである。

●会 期 2001年6月9日(土)～7月22日(日)

●会 場 自然史博物館ネイチャーホール
●主 催 大阪市立自然史博物館、大阪市教育委員会、高知県立牧野植物園、毎日新聞社

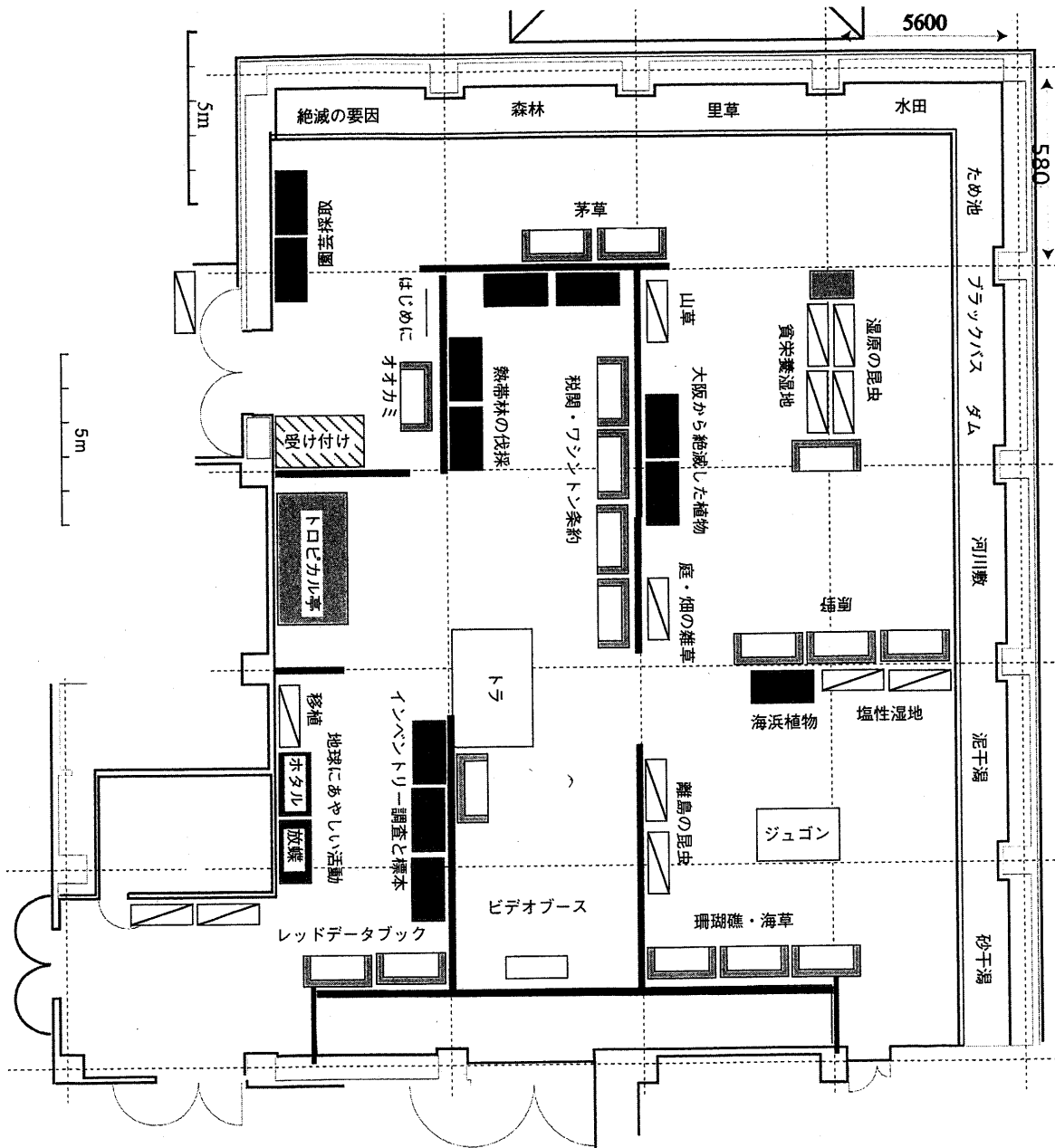


図3.「レッドデータ生物 一失われゆく自然と生きもの」配置図

展 覧 事 業

- 観覧料 大人400円、高校生・大学生300円、中学生以下、障害者、市内在住の65歳以上は無料。

●展示内容

1. 導入ギャラリー
2. 牧野富太郎の生涯
3. 牧野富太郎と関西
4. 牧野式植物図を読み解く
5. 牧野式植物図の変遷
6. 画工の作品

●主な展示品

1. 牧野富太郎の植物図 約150点
2. 幕末から明治の画工たちの作品 約50点
3. 牧野富太郎の遺品や生涯を物語る資料 約100点

特別展「からだ・ふしぎ発見～遺伝子からコンピュータ技術まで～」

本展では、最先端科学のテーマである「遺伝子」、「脳」や「認知学」など「からだ」に迫る新しい科学を紹介した。たとえば、複雑な体内の構造が鮮明にわかる貴重なシートプラスティネーション人体標本、3万4千人178項目に及ぶ日本人の人体計測データにもとづく平均の人体寸法ダミー、ハイテク機器による人体内部の映像資料などで、誰もがたどる誕生から成長そして老化について考えるようにした。遺伝子については楽しみながら塩基配列について学ぶことができる迷路やゲノム解説ビデオで紹介。また、チンパンジーの認知実験に使われているコンピュータソフトの擬似体験などを通してあらためて「ヒトとは」を問題提起した。指紋、顔、虹彩、声紋など、コンピュータ化社会に欠かせないからだの特徴を使った電子認証も体験することができるようにした。

- 会 期 平成13年10月6日（土）～11月25日（日）
- 会 場 自然史博物館特別展示室ネイチャーホール
- 主 催 大阪市立自然史博物館、大阪市教育委員会、産経新聞社
- 後 援 大阪新聞、サンケイスポーツ、夕刊フジ、サンケイリビング新聞
- 協 力 名古屋市科学館
- 観覧料 大人700円、高校生・大学生500円、中学生以下、障害者、市内在住の65歳以上は無料。
- 展示内容

1. あかちゃんからおとなへ

だれもが経験してきた誕生～成長。胎児の成長過程

程から誕生、成長・老化へと、各自それぞれに時の流れとからだの変化を振り返る。

巨大胎児のレリーフ（写真あり）、人体ダミー、「菌にある誕生の記録（新産線写真）」ほか。

2. からだの中は？

からだの中はどうなっているのか。シートプラスティネーションやハイテク映像、内臓はめ込み模型などでからだの中を紹介する。

シートプラスティネーション人体標本、ビデオ「CTでみるからだのなか」、内臓はめこみゲームほか。

3. すうじdeからだ

からだに関するさまざまな数値データでからだを見つめなおす。

腕の長さや身長（造型）、活力年齢測定装置「活歳くん」ほか。

4. あなただけのからだ

IT時代になり、本人であるかどうかを確認することがますます必要とされ、指紋などのからだの特徴をカギの代わりに使う技術が実用化されつつある。その人だけのからだの特徴とは何なのか。

体験型PC「顔認証」、「指紋認証」、「声紋認証」、「虹彩認証」、ビデオ「DNA鑑定とは」ほか。

5. からだの設計図：遺伝子

遺伝子はからだの設計図である。遺伝子・ゲノムとは何か。遺伝子がからだ（生命）とどう関わっているか。

遺伝子のラビリンス（迷路）、ビデオ「ゲノムが拓く世界」。

6. チンパンジーと比べてみたら

人間とは？霊長類研究所での研究成果を紹介し、行動や考え方など人間とチンパンジーとの相違を考える。

実験ソフト体験「アイちゃんにちょうせん」、チンパンジー全身骨格・剥製（写真あり）ほか。

7. まねされるからだ

特別展「親子で遊ぶ木とのふれあいワールド」

私たちは昔から豊かな森や緑に囲まれて生活をし、その中で家を建てるための建築用材から家具や生活調度品にいたるまでそのほとんどを木に依存していた。そのために昔から木は生活の一部であり、人々は木に親しみを

覚えるとともに、木の持つ一つ一つの素材に合った使用方法を生活の中でいかすなど“知恵”を働かせてきた。

近年、私たちの生活は以前のような木に囲まれた環境の中で生活することなく、新しい素材を追い求めた結果、木は扱いにくいものとして暮らしの中からはますます遠ざかっている。人工素材に囲まれた生活は、昔とは比べものにならないほど便利にまた快適になったが、便利さを追求するあまり、私たちは消費社会では体験できない“木の温もり”を失っているのかもしれない。子供たちにとっても、開発により森や林が次々となくなり、身の周りの生活から木との接点が失われ、五感を木を捕らえることができなくなっている。

この展覧会を、木が私たちの生活にどう関わってきたのかを見つめなおし、子どもたちが五感を通じて木とふれあうことができる機会とする。

●会 期 平成13年12月8日（土）～

平成14年1月20日（日）

●会 場 自然史博物館ネイチャーホール

●主 催 大阪市立自然史博物館、大阪市教育委員会、朝日新聞社

●協 力 おかざき世界こども美術博物館

●監 修 者 静岡大学教育学部教授 杉山昭博

●観 覧 料 大人400円 高校生・大学生300円 中学生以下無料

●展示内容

STAGE 1

- 1) 樹齢数百年の栃の木を会場入り口に展示。幹の中心が空洞になっている所を子どもたちにぐらさせる。木の中に入ったところから木の世界を作りあげる。
- 2) 家屋の建て潰しなどで廃材となった柱、梁、板材などを展示。廃材のままの展示と、汚れた面をすべて削り木肌がはっきりわかるよう併せて展示。廃材から作成した椅子、碗、生活雑器などを通して古い材でも廃棄するのではなく、手を加えることにより再生できることを理解させる。
- 3) 直径50cm、高さ50cmの杉の輪切りを利用して、芯材こ桎目、板目、刃材などの基本的な木取りを紹介。それぞれの材を合わせたら一本の丸太になるよう製材して展示。
- 4) 木片の音の違い：比重の軽い材から重い材まで20種類ほど並べそれぞれ音の違いを比較する。
- 5) 香りの違い：材による香りの違いをそれぞれの力

ンナくずで体験させる。

STAGE 2 鳥たちの声

- 1) 材質よる木の質感の違いを鳥をモチーフにして展示する。色の違い（種類別素材）。突板、丸太、角材などによる（形状）の違い。切る、削る、曲げる、編む、積層、組む、象嵌など技法の違い。
- 2) 掘り起こしのパズル壁：大きな壁にパズルのように、動物や色々な形を組み込んでいくご遊びの壁。動物などの各種ユニットは、材種を色々変え、子どもたちが取り出して選べる動物園的要素を繰り返す。

STAGE 3 木組み

古来日本建築には釘を使わず木組みの方法を用いている。単なる結合構造にとどまらずそのフォルムは無駄がなく、大変美しい。幾通りの木組みを紹介することにより伝統的な技法の一部を紹介できる。子供たちに木組みといっても理解するのが難しいが代表的な木組みの数々を再現、それぞれパズルとして作ってもらう。

STAGE 4 ごろ寝の広場子どもたちが、ごろごろ寝ころんだり、形に抱きついたり、親子で気ままに自由にくつろげる場、そんな中で手で作り込んだ形を体で実感して覚える場。

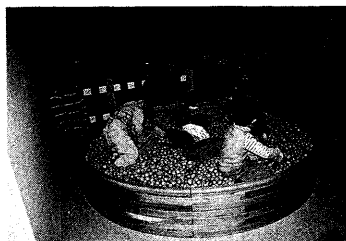
STAGE 5 さわるかたちの広場（触の参加広場）

日本人が長い歴史の中で形成してきた指し物、くりもの、曲げもの積層、寄せ木、象嵌、彫刻、NCルーターなど多くの技術とそれによって作成された「造形物」の展示。

STAGE 6 木と遊ぼう

- 1) いろいろな遊びの可能性を実験できる場として設定する。廃材を集めて積み木遊び、創造遊びなどいろいろな遊びの場の提供。
- 2) 不定形で色々な材種の木約3万2千個を集めた砂場で、木の質感を肌で感じてもらう。
- 3) 木のおもちゃで遊ぼう

全国で活躍している木のおもちゃ作家を作品を展示。量販品にない創造生豊かな作品を通して日ごろ馴染みのない木のおもちゃと遊び木のよさを知ってもらう。



Ⅲ. 特別陳列

■「知ってますか？あなたの町の地質 —近畿の地質図展—」

近畿地方では「1995年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）」以後、独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター（旧 通商産業省工業技術院地質調査所）によって集中的に活断層や地質の調査が行われて、その成果がまとまってきた。2001年に大阪周辺の五万分の一地質図がすべて完成してつながったのを期に、最新の成果である近畿地域の地質図や、実際の調査方法をわかりやすく展示し、市民の方が、自分たちの住む町の地質情報を理解できるように企画した。

なおこの特別陳列は、地質調査総合センターからの提案で企画を決定し、自然史博物館・地質調査総合センター共催で開催した。

開催期間最初の2月16・17日には地質調査総合センターから、近畿地方の調査・研究に携わり地質図の制作に関わったスタッフが市民向けに解説を行い質問に答えるとともに、子供たち向けには「化石のレプリカ作り」をはじめとした「やってみようコーナー」で地学への興味のきっかけとなるような参加体験コーナーを設けた。

また、例年開催している地球科学講演会も水野清秀氏（産業技術総合研究所 活断層研究センター）を講師に迎えて2月17日（日）に同時開催し、多数の参加者があった（30ページ参照）。

● 期 間：平成14年2月16日（土）から3月10日（日）（ただし、地質図の解説や、「化石のレプリカ作り」

などのイベントは16・17日の2日間限り）

● 場 所：自然史博物館 本館2F 特別展示室

● 展示の構成：

1. 100万分の1日本地質図の展示
2. 地質図の歴史
明治27年発行の40万分の1予察地質図近畿の展示。
3. さまざまな地質図類
各地の5万分の1地質図幅を用いて、土木・建築、防災、資源開発等、様々な分野での利用例を紹介。
4. 地質図の読み方
地質図の読み方を簡単に説明。
5. 近畿の地質図
 - 1) 近畿地方の20万分の1地質図幅「京都及大阪」、「和歌山」「田辺」によって近畿地方の地質を概観。
 - 2) 丹波高地—播但地域の5万分の1地質図。
 - 3) 大阪湾周辺数値地質図10万分の1地質図。
 - 4) 大阪・奈良地域の5万分の1地質図。
 - 5) あなたの家はどこですか？
会場の床に、大阪から名古屋までの5万分の1地質図幅を拡大して張り合わせたもの。
6. 地質汚染図
ヒ素や水銀、カドミウムなどの有害元素による土壌汚染の様子を示した地図。
7. 活断層図
 - 1) 50万の1活構造図「京都」
近畿圏及び中京圏を中心とした範囲で、活断層、地震の分布や地盤の構造などを表現したもの。
 - 2) 活断層ストリップマップ
活断層の正確な位置や地質の情報を、断層に平行な細長い地形図に示したもの。
8. 100万分の1重力異常図（近畿地方）
近畿地方の重力異常（ブーゲー異常）図の展示。
9. 50万分の1鉱物資源図
中部及び近畿地方の代表的な314鉱床を選別し、表示・記載したもの。

● やってみよう！ 体験コーナー

1. ペットボトルを使った地盤の液状化実験
2. やってみよう！ 化石のレプリカ作り
3. 鳴り砂を鳴らしてみよう

2月16・17日の来場者：1,082名

化石のレプリカ作りの参加者：277名

なお、地質調査総合センターによるまとめは「地質ニュース」誌576号66-68ページに掲載されている。

IV. 館外での展示

- 図書館等での移動展示は今年度は実施しなかった。
- 大阪市道路公社の依頼により、長居公園地下駐車場に同建設現場での地質調査の成果を常設展示した。

V. 展示関係の出版物・リーフレット・ビデオ

■常設展解説書

- ミニガイド No.19「大阪の樹木 一社寺林の木ーモチノキ科、ニレ科」
一般市民向け、A5縦版、本文28ページ。平成14年3月発行、400円。

■特別展解説書

- 第28回特別展「50周年だよ！標本集合～自然史博物館のあゆみ～」解説書
一般市民向け、B5版縦版、本文31ページ、カラー図版2ページ。平成13年4月27日発行。500円。
- 第29回特別展「レッドデータ生物 失われゆく自然と生きもの」解説書
一般市民向け、B5版縦版、本文62ページ、カラー図版4ページ。平成13年8月4日発行。700円。
- 第30回特別展「世界の蝶と甲虫 一岡村宏一コレクション展一」解説書
一般市民向け、B5版縦版、本文16ページ、カラー図版20ページ。平成14年3月16日発行。500円。

VI. 「自然史探検すくらっちクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。問題のカードは10種類用意し、各5問となっている。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

平成13年4月より平成13年8月までは、情報センター開設のため中断したが、平成13年9月より情報センターの展示を題材にした問題を加えて、再開した。

調査研究事業

当館の四つの事業(展覧・調査研究・資料収集保管・普及教育)に、学芸課に所属する学芸員それぞれが、等しく取り組んでいる。これらの四事業を別々のものとしてではなく、互に関連したものにするためには、その根底に調査研究が位置づけられなければならない。本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるからである。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 那須孝悌 (Takayoshi Nasu)

動物研究室	山西良平 (Ryohei Yamanishi)	学芸課長代理
	波戸岡清峰 (Kiyotaka Hatooka)	学芸員
	和田 岳 (Takeshi Wada)	学芸員

昆虫研究室	金沢 至 (Itaru Kanazawa)	主任学芸員
	初宿成彦 (Shigehiko Shiyake)	学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio Matsumoto)	学芸員

植物研究室	岡本素治 (Motoharu Okamoto)	学芸課長
	藤井伸二 (Shinji Fujii)	学芸員
	佐久間大輔 (Daisuke Sakuma)	学芸員

地史研究室	樽野博幸 (Hiroyuki Taruno)	研究主幹
	川端清司 (Kiyoshi Kawabata)	主任学芸員
	塚腰 実 (Minoru Tsukagoshi)	学芸員

第四紀研究室	石井久夫 (Hisao Ishii)	主任学芸員
	石井陽子 (Yoko Ishii)	学芸員
	中条武司 (Takeshi Nakajo)	学芸員

平成 14 年 3 月 31 日現在

II. 個別調査研究

■那須孝悌 (館長)

- (1) 長野県野尻湖周辺における後期更新世・完新世の古植生変遷に関する研究 (野尻湖花粉グループの一員として)
- (2) 新潟県馬高遺跡周辺における縄文後晩期の古植生に関する研究

■山西良平 (動物研究室)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾、瀬戸内海及びその周辺海域の魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市公園の鳥類相の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) アメンボの翅型と越冬の研究

■初宿成彦 (昆虫研究室)

- (1) ハナノミ科甲虫類の分類学的研究
- (2) 新生代の昆虫化石 (遺跡の昆虫遺体を含む) の研究 (滋賀県・古琵琶湖, 長野県信濃町・野尻湖, 北海道千歳市・オサツ 2 遺跡・ユカンボシ遺跡, 大阪市平野区・瓜破遺跡)
- (3) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査 (ハムシ科, テントウムシ科, ヒラズゲンセイなど)
- (4) クマゼミの生活史の解明

■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) 特定ホストにおける捕食寄生者相の調査 (材穿孔性昆虫, ミノガ, スギヒメハマキ, テングチョウなど)
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査

■岡本素治 (植物研究室)

- (1) 種子植物の生殖戦略の比較研究
- (2) 2 倍体ヤブガラシの分布調査
- (3) ネジレモの捻れた葉の起源と適応的意義の研究
- (4) 近畿地方における保護上重要な植物に関する研究 (レッドデータブック近畿研究会の一員として)。

■藤井伸二 (植物研究室)

- (1) コナラ属植物の繁殖生物学。
- (2) 西スマトラ地域におけるブナ科植物の分類。
- (3) 琵琶湖および周辺域のフロラと植物地理。
- (4) 近畿地方における保護上重要な植物に関する研究 (レッドデータブック近畿研究会の一員として)。
- (5) シーボルト植物コレクションの調査。

■佐久間大輔（植物研究室）

- (1) 外生菌根性菌類の生態学的研究.
- (2) 丘陵地の生物群集の景観生態学的研究.
- (3) 二次林植物群集の研究.
- (4) 菌類インベントリーの手法と体制.
- (5) 博物館情報システムの構築

■梅野博幸（地史研究室）

- (1) ステゴドン科（長鼻類）の分類と系統に関する研究
- (2) 大阪平野および周辺地域における、鮮新—更新世の古脊椎動物相の変遷と、生層序区分に関する研究
- (3) 中国産長鼻類に関する研究
- (4) 長鼻類の足跡化石に関する研究

■川端清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 南アルプスの四万十帯・白亜系の構造発達史に関する研究
- (4) 現生放散虫に関する研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) 化石および現生球果の分類学的研究
- (3) ブナ属化石の分類学的研究
- (4) 陸上植物の起源と進化

■石井久夫（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野第四紀層産貝化石の古生態と古環境に関する研究
- (2) 長野県野尻湖層産淡水貝化石の研究（野尻湖貝類グループの一員として）
- (3) 干潟に生息する現生貝類の研究

■石井陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の更新統・完新統の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

■中条武司（第四紀研究室）

- (1) デルタ成・浅海成堆積物の堆積過程に関する研究
- (2) 地層の保存ポテンシャルに関する研究
- (3) 陸域における堆積物重力流の分化過程に関する研究
- (4) 大規模噴火に伴う再堆積性火山砕屑物に関する研究
- (5) 沿岸域の微地形発達と堆積作用に関する研究

Ⅲ. 研究業績の公表

■当館より発行された刊行物

自然史研究（Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）第3巻第1号. 2002年3月31日発行. 14ページ.

大阪湾海岸生物研究会：大阪湾南東部の岩礁海岸生物相—1996～2000年の調査結果— 1-14ページ. [No.374]

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study 誌は、ns. と略記した。同誌の表紙が「ジュニア会員のページ」と一連の内容の場合は、表紙を記事の一部とみなしてページを付した。当館学芸員以外の著者には氏名に*を付した。

【館長】

那須孝梯（2001. 9）自然科学と考古学研究の協調 一現状と課題一. 第50回埋蔵文化財研究会「環境と人間社会」発表要旨集: 177-180.

那須孝梯（2002. 3）瓜破遺跡の畠状遺構から出土した種実. 大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ, (財) 大阪市文化財協会: 121-124.

【動物研究室】

山西良平（2001. 4）特集：自然史と自然史博物館＜市民と博物館＞大阪市立自然史博物館. 遺伝 55 (4): 43.

山西良平（2001. 5）50年の歩みの中で生まれた自然史博物館～自然史と自然誌～. ns. 47 (5): 51-52.

山西良平（2001. 5）私の自然観 磯観察. どんぐりっこ（大阪シニア・自然大学広報紙）87: 1.

山西良平（2001. 10）「NPO法人 大阪自然史センター」発足！ ns. 47 (10): 116-117.

山西良平（2001. 11）「NPO法人 大阪自然史センター」発足！（続）. ns. 47 (11): 127-128.

波戸岡清峰（2001. 7）マアナゴ—資源生態と漁業—, アナゴ科魚類の分類. 月刊海洋, 33 (8): 529-535.

波戸岡清峰（2001. 8）表紙とジュニア会員のページ「穴だらけにされた干潟」. ns. 47 (8): 85-86.

波戸岡清峰（2001. 9）自然と文化財7. もうひとつの天然記念物・アユモドキ. 大阪の歴史と文化財, (財) 大阪市文化財協会, (8): 52-54.

波戸岡清峰（2002. 1）瀬戸内海東部に分布するシロチチブ（個人的な失敗と分布の確認）. ns. 48 (1): 3-4, 12.

- 和田 岳 (2001. 6) スズメのヒナ. ns. 47 (6): 61-62.
 和田 岳 (2001. 9) 大阪平野の水田のカエルとイモリの現状. ns. 47 (9): 99-101.
 和田 岳 (2002. 2) 河内長野市天見の鳥地獄からの収穫物. ns. 48 (2): 22.

【昆虫研究室】

- 金沢 至 (2001. 4) 1) 蝶・蛾, 4) その他の昆虫. 大阪市立自然史博物館第28回特別展解説書「50周年だヨ! 標本集合!! ~自然史博物館のあゆみ~」: 21, 22.
 金沢 至 (2001. 5) 昆虫コレクション—大阪市立自然史博物館. 昆虫と自然36 (5): 35-37.
 金沢 至 (2001. 6) 付記. アゲハの蛹の色について. ns. 47 (6): 67.
 金沢 至 (2001. 8) (2) 昆虫採集と乱獲, (2) トンボ, (3) カワラバタ, (2) 草原性の昆虫, (3) 放蝶. 大阪市立自然史博物館第29回特別展解説書「レッドデータ生物—失われゆく自然と生きもの」: 4, 20-21, 24, 26-27, 52.
 金沢 至 (2001. 8) レッドデータ生物展によせて. 昆虫の衰亡とその原因. ns. 47 (8): 87-89.
 金沢 至 (2001. 10) 日本のアサギマダラはどこへ? ジュニア会員のページ. ns. 47 (10): 109-110.
 金沢 至 (2001. 12) 近畿支部. 日本昆虫学会支部活動報告. 昆虫ニューシリーズ 4 (4): 159-160.
 金沢 至 (2002. 1) ミズヒマワリの逸出繁茂とアサギマダラの訪花. ns. 48 (1): 10-12.
 金沢 至 (2002. 3) 淀川におけるヒヌマイトトンボの生息調査会の報告. gracile (64): 31.
 井上 清・金沢 至 (2001. 5) 金剛山調査会の報告 (1) —2000年春—. gracile (63): 41-44.
 金沢 至・初宿成彦 (2001. 8) (4) 森林性の昆虫. 大阪市立自然史博物館第29回特別展解説書「レッドデータ生物—失われゆく自然と生きもの」: 29-30.
 岡村宏一*・金沢 至・初宿成彦 (2002. 3) 大阪市立自然史博物館第30回特別展解説書「世界の蝶と甲虫—岡村宏一コレクション展—」20 pls. 16 p.
 初宿成彦 (2001. 4) ジュニア会員のページ 葉っぱの上に ひらべったい へんな虫をみつけたよ. ns. 47 (4): 38-39.
 初宿成彦 (2001. 4) 甲虫. 第28回特別展「50周年だヨ! 標本集合!!」. 大阪市立自然史博物館. (分担執筆)
 初宿成彦 (2001. 4) 展示解説第13集「大阪の自然誌」. 大阪市立自然史博物館. (分担執筆: 大阪の移入種, セミとクワガタの垂直分布などを担当)
 初宿成彦・*六車恭子・*西尾伸一・*山内周輔 (2001. 6) 大阪府河内長野市におけるシロジュウシホシテントウの斑紋多型と比率について. ns. 47 (6): 69.
 Shiyake, S. (2001.6) A new species of *Glipostenoda* from Shikoku, Japan (Coleoptera: Mordellidae). Sukunahikona, 佐々治寛之教授退官記念論文集: 333-335. 日本甲虫学会.
 初宿成彦 (2001. 7) 日本産フナガタハナノミ概説. 昆虫と自然36 (8): 31-33.
 初宿成彦 (2001. 7) ウチの目玉収蔵品紹介. Collection 1 家の中の虫 拡大模型. 生物の科学=遺産55 (4): 1.
 初宿成彦 (2001. 8) 鞆公園セミのぬけがらしらべ 2000年の記録. ns. 47 (8): 93-94.
 初宿成彦 (2001. 8) 第29回特別展「レッドデータ生物」. 大阪市立自然史博物館. (分担執筆: ネクイハムシ, カワムラナベブタムシ, ホタルの飼育などを担当)
 初宿成彦 (2001. 9) 総合学習に先手を打つ〜大阪自然史での取り組み〜. 昆虫担当学芸員協議会ニュース (10): 10-15.
 *守屋成一・初宿成彦 (2001. 9) 外来昆虫ブタクサハムシ (コウチュウ目: ハムシ科) の日本国内における分布拡大状況. 昆虫 Japanese Jour. Entomol. N. S. 4 (3): 99-102. 日本昆虫学会.
 初宿成彦 (2002. 3) 大阪のハムシ (その1) カメノコハムシ亜科. ns. 48 (3): 27-30, 36.
 初宿成彦 (2002. 3) 自然と不自然, 美しさと醜さ. 私の自然観. どんぐりっこ (92): 1. 大阪自然環境保全協会.
 初宿成彦 (2002. 3) 瓜破畠遺構の昆虫遺体. 大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ: 117-120. (財) 大阪市文化財協会.
 松本 吏樹郎 (2001. 6) ハチ目昆虫の検索と解説. 日本環境動物昆虫学会環境アセスメント動物調査手法 11: 31-76.
 松本 吏樹郎 (2001. 9) 日本産コブフシオナガバチ属 *Dolichomitrus* 属の分類学的再検討. 日本昆虫学会第61回大会 (宮城) 講演要旨.
 Matsumoto, R.・Saigusa, T. (2001. 10) The biology and immature stages of *Thrybius togashii* Kusigemati (Hymenoptera: Ichneumonidae: Cryptinae), with a description of the male. J. Nat. Hist. 35: 1507-1516.

酒井博文・松本吏樹郎 (2001. 10) 大阪府からのチャイロスズメバチの再発見. ns. 47 (10) : 114.

松本吏樹郎 (2001. 10) 大阪とその周辺のスズメバチとアシナガバチ. ns. 47 (10) : 111-113.

松本吏樹郎 (2001. 11) アルマンモモアカアナバチ 一変わった巣材と大部屋での子育てー ns. 47 (11) : 121-122.

【植物研究室】

岡本素治 (2001. 5) モチツツジの花をラップに雄を呼ぶ? ns. 47 (5) : 49-50.

岡本素治 (2001. 6) 虫の眼の不思議 (1). ns. 47 (6) : 63-65.

岡本素治 (2001. 7) 虫の眼の不思議 (2). ns. 47 (7) : 78-79.

岡本素治 (2001. 9) 虫の眼の不思議 (3). ns. 47 (9) : 101-102.

レッドデータブック近畿研究会 (2001) 改訂・近畿地方の保護上重要な植物ーレッドデータブック近畿2001ー. (財) 平岡環境科学研究所 (岡本・藤井分担執筆)

藤井伸二・岡本素治 (2002) ミニガイド No. 19 大阪の樹木ー社寺林の木ーモチノキ科, ニレ科. 大阪市立自然史博物館

藤井伸二 (2001. 5) 私のフィールドノートから32 長居公園付近のオオシロカラカサタケの生育環境. ns. 47 (5) : 55.

藤井伸二 (2001. 7) レッドデータ植物ー絶滅危惧種はなにを語るのか?ー (1). ns. 47 (7) : 74-77.

藤井伸二 (2001. 8) レッドデータ植物ー絶滅危惧種はなにを語るのか?ー (2). ns. 47 (7) : 90-91.

藤井伸二 (2001. 8) 大阪市立自然史博物館第29回特別展解説書「レッドデータ生物ー失われゆく自然と生きものー」. (分担執筆)

佐久間大輔 (2001. 4) 「花と緑と自然の情報センター」がオープンします! ns. 47 (4) : 40-43.

佐久間大輔 (2001.7) インターネット自然誌地理情報システム「環瀬戸内いきものマップ」を公開します. ns. 47 (7) : 80.

佐久間大輔 (2001. 8) インターネット自然誌 GIS「環瀬戸内いきものマップ」を使ってみる. ns. 47 (8) : 92.

佐久間大輔 (2001. 9) 失われゆく自然, 失われゆく文化. ns. 47 (9) : 97-98.

佐久間大輔 (2001. 10) 町中で見られるキノコ. 世界通信

教材学習ニュース (1713) : 1. 世界通信社

佐久間大輔 (2001. 7) 特別展解説書 レッドデータ生物 分担執筆

三橋弘宗*・佐久間大輔 (2002. 3) インターネット自然誌GIS「環瀬戸内いきものマップ」について. 第9回 全国科学博物館協議会研究発表大会講演要旨集

佐久間大輔 (2002. 3) 「博物館を使いたおす」ためにひとつようなこと. 環瀬戸内地域 (中国・四国地方) 自然史系博物館ネットワーク推進協議会平成13年度成果報告書.

佐久間大輔 (2002. 3) 京都・大阪周辺の里山植生 クヌギ・アベマキについて. 第49回生態学会大会講演要旨集

佐久間大輔 (2002. 3) 韓国のナラ林・里山について. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」ー平成13年度成果報告ー : 3-6.

佐久間大輔 (2002. 3) インターネットで調べよう環瀬戸内いきものマップ 世界通信教材学習ニュース (1725) 世界通信社

【地史研究室】

樽野博幸 (2002. 2) ○○年前はどうしてわかる. ns. 48 (2) : 15-18.

川端清司 (2002. 3) アーバンジオロジーのすすめ. 関西ウォーク, 2002年春号 : 80-81.

塚腰 実・森 勇一* (2001. 10) 三重県多度町および四日市市に分布する東海層群から産出した大型植物化石. 日本植生史学会第16回大会講演要旨集, 31.

八幡政弘*・五十嵐八枝子*・塚腰 実・前田寿嗣*・柳井清治* (2001. 11) 中央北海道, 砂川低地帯南東地域の更新統. 地球科学, 55 (6), 339-356.

塚腰 実 (2002. 2) リンボク (鱗木). ns. 48 (2) : 13-14.

【第四紀研究室】

石井久夫 (2001. 4) 50周年だよ! 全員集合!! ~自然史博物館のあゆみへ. 第28回特別展解説書 (分担執筆).

安井 賢*・小林巖雄*・鴨井幸彦*・渡辺其久男*・石井久夫 (2001. 4) 越後平野中央部, 白根地域における完新世の環境変遷. 第四紀研究40 (2) : 121-136.

石井久夫 (2001. 8) レッドデータ生物失われゆく自然と生きもの. 第29回特別展解説書 (分担執筆).

石井久夫 (2001. 12) サキグロタマツメタガイの大発生 干潟の生物に異変?. ns. 47 (12) : 139-141.

石井久夫 (2002. 1) 化石の貝から見る海の世界. 大阪シニア・自然大学広報紙どんぐりっこ89 : 1.

- 石井陽子 (2001) 大阪平野深層ボーリング OD-5 コアの火山灰層序 (演旨). 日本地質学会第108回大会講演要旨集 192.
- 石井陽子・中条武司 (2001) 火山灰から地層の時代を調べる—自然史博物館地下の地質 5—, ns. 47 (11): 123—124.
- 石井陽子 (2002) 表紙とジュニア会員のページ「深紅の角閃石—酸化角閃石」ns. 48 (3): 25—26.
- 趙 哲済*・石井陽子・小倉徹也* (2002. 3) 昌状遺構構成物の粒度分析. 大阪市平野区瓜破遺跡発掘調査報告Ⅱ: 94—100.
- 中条武司 (2001. 4) 大阪市立自然史博物館 (編) 第28回特別展「50周年だヨ! 標本集合!! ~自然史博物館のあゆみ~」解説書, 31p. (分担執筆).
- 中条武司 (2001. 4) 大阪市立自然史博物館 (編) 展示解説第13集ネイチャースクエア「大阪の自然誌」展示解説. 38p. (分担執筆).
- 中条武司 (2001. 5) 大阪市立自然史博物館 (編) Q and A 大阪のしぜん. 14p. (分担執筆).
- 中条武司・前島 渉* (2001. 9) 対州層群下部層におけるリズムタイトの周期性と堆積過程. 日本地質学会第108年学術大会 (金沢) 講演要旨: 79.
- 林 美明子*・前島 渉*・中条武司・田中 淳*・Rajashree Das*, K. L. Pandya* (2001. 9) インド東部タルチールゴンドワナ堆積盆タルチール層群のリズムタイト. 日本地質学会第108年学術大会 (金沢) 講演要旨: 82.
- 前島 渉*・中条武司・Rajashree Das*, K. L. Pandya*・林 美明子* (2001. 9) タービダイトチャネルからのあふれ出し堆積物にみられる小規模な上方厚層化シーケンス: インド, オリッサ州タルチール層群の例. 日本地質学会第108年学術大会 (金沢) 講演要旨: 76.
- 片岡香子*・中条武司 (2001. 9) 爆発的噴火活動にともなう火山砕屑物の再堆積作用—再堆積性火山砕屑物 (再堆積性テフラ) は何を語るのか?—, 月刊地球 23 (9): 619—623.
- 中条武司・片岡香子 (2001. 12) 水の流れて運ばれてたまった火山灰. ns. 47 (12): 133—134.
- [旧年度追加]
- 石井久夫 (1997. 3) 付章 自然遺物の分析 上津島遺跡より出土した軟体動物 (貝類) 遺骸. 豊中市文化財調査報告第41集上津島第5次発掘調査報告: 99—104, pl. 48
- 石井久夫 (1999. 3) 軟体動物 (貝類). 豊中市文化財調

査報告書第46集 穂積遺跡第14・15次発掘調査報告第Ⅵ章第3節動物遺体: 83—95

石井久夫 (1999. 3) その他の無脊椎動物. 豊中市文化財調査報告書第46集 穂積遺跡第14・15次発掘調査報告第Ⅵ章第3節動物遺体: 96

七山 太*・佃 栄吉*・水野清秀*・石井久夫・北田奈緒子*・竹村恵二* (1999. 9) 中央構造線活断層系, 友ヶ島水道断層の完新世における活動履歴調査. 地質調査所速報, no. EQ/99/3 (平成10年度活断層・古地震研究調査概要報告書): 235—252

Ⅳ. 文部省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館学芸員が研究代表者となったもの

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
四万十帯における海嶺沈み込みと白亜紀末〜古第三紀テクトニクスに関する研究 (3年間継続の3年目) (課題番号11640459)	川端清司

○北海道東部の根室層群・対馬の対州層群から資料採集を行った.

○上記試料を含めて, 放散虫化石の抽出・分析を行った.

○3年間の研究のまとめを行った.

■奨励研究 (A)

研究課題	研究代表者
低湿地性植物の繁殖特性と遺伝的変異に基づいた保全指針の検討 (2年間継続の2年目) (課題番号40228945)	藤井伸二

○琵琶湖岸の野外調査と遺伝的変異解析を行った.

■奨励研究 (A)

研究課題	研究代表者
肉眼で認識できない広域火山灰の	石井陽子

検出による大阪層群の時間軸設定

(課題番号12740287)

○大阪平野で採取されたボーリング試料について、火山灰分析を行って肉眼で認識できない火山灰を検出し、中・上部更新統の火山灰層序を検討した。鳥取県倉吉市・関金町、鹿児島県鹿児島市、大分県大分市・竹田市・荻町において比較試料を採取した。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
20年間における熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応(4年間継続の2年目) (課題番号 12575006)	米田 健	藤井伸二

○10月16日～11月23日の39日間、インドネシア共和国に出張した。

○スマトラ島において、熱帯降雨林の動態調査を行った。

○ブナ科植物の分類学的再検討のための資料収集を行った。

○ボゴール植物園において標本調査を行った。

■大阪市学芸員等共同研究による派遣

氏 名：石井陽子

日 程：2001年7月25日～8月3日

出張先：大韓民国慶尚南道密陽市

目 的：「初期農耕」プロジェクトにより、初期農耕遺跡の試掘現場にて地質調査と分析試料の採取。

■同 上

氏 名：佐久間大輔

日 程：2001年9月22日～27日

出張先：大韓民国江原道

目 的：韓国落葉樹林帯の調査

■科研費(基盤研究B)による出張

氏 名：藤井伸二

日 程：2001年10月16日～11月23日

出張先：インドネシア共和国

目 的：「20年間における熱帯雨林の林分動態と気候変動に対する反応」の調査。詳しくは前項「基盤研究(B)」を参照。

■学芸員の海外派遣事業による出張

氏 名：石井久夫

日 程：平成14年3月8日～28日

出張先：英国ロンドンおよびカーディフ

目 的：英国自然史博物館(ロンドン)、ウェールズ国立博物館・美術館(カーディフ)にて、日本を含む東アジア産貝類のタイプ標本の検討、標本収蔵方法・展示方法の視察、研究スタッフとの交流。

V. 財団等の助成金を受けて行った研究

当年度は該当なし

VI. 海外出張・派遣(日程順)

■国際協力事業団(JICA)による派遣

氏 名：那須孝悌

日 程：平成13年5月10日～7月11日

出張先：インドネシア共和国

目的及び内容：バンドン地質博物館フォローアップ

他の参加者：三枝春生(兵庫県立人と自然の博物館) 5月10日～同21日、春名誠(通産省地質調査所地質標本館) 4月～7月、富田克敏(近畿大学) 5月11日～同20日

新規・継続の別及び実績：平成6(1994)年から継続

経費：全額国際協力事業団(JICA)経費

VII. インターネットによる研究環境の支援

自然史博物館では平成9年度からインターネットシステムを導入し、市民への情報発信とともに研究活動に利用している。利用の形態は主にホームページの閲覧による研究情報の収集、メーリングリストを含む電子メールの利用、FTPによる外部資料の利用などである。

昨年度末に「花と緑と自然の情報センター」の工事に伴い、システムを更新、Linux サーバー2台、Windows NT サーバー4台、Mac サーバー2台(内部向けdbサーバーなどを含む)とした。インターネットシステムは「ネイチャースクエア・大阪の自然誌」のオープンに伴い、館内展示室における来館者向けの情報提供システムとしても機能し、動画コンテンツ、音声コンテンツなどとともに「自然観察地図」、「大阪の地学ガイド」、「大阪の生き物」

「絵解き検索」、「博物館案内」などが提供されている。博物館の保有する標本情報などをデータベース化する事で、市民に利用しやすいコンテンツとして加工している。将来的には書誌情報なども提供する予定である。また、インターネットでの公開は現在、回線能力や利用ガイドラインを検討中であり、将来の課題としている。これらサーバーの整備と併せ、館内の LAN、ファイアーウォールについても整備した。

さらに、平成12年度には環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会と共同でインターネット自然誌 GIS「環瀬戸内いきものマップ」を整備し、来年度に向けた運用を準備中である。広域の博物館のデータベースが連携したシステムであり、今後の発展が期待される。

VIII. 大阪市学芸員等共同研究「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」

大阪市教育委員会が各博物館施設に所属する学芸員等の人的資源の相乗効果と活性を図り、さらに研究成果を市民還元することを目的として実施する共同研究。平成12年度より3カ年の計画で、当館をはじめ大阪歴史博物館、大阪市の立美術館、大阪市立科学館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市文化財協会などが参加し、「朝鮮半島と日本の相互交流に関する総合学術調査」として様々な共同研究が進行中である。当館では、サブテーマの内「旧石器時代における自然環境の変動と人類の技術の移動に関する研究」「朝鮮半島と日本列島における農耕の比較検討 ―自然環境との関連において―」を中心に担当している。

平成13年度はこれらに関連して、7月に石井陽子学芸員が大阪市文化財協会の大庭学芸員とともに初期農耕遺跡の調査に、さらに9月には佐久間大輔学芸員が韓国落葉樹林帯の調査のため江原道へそれぞれ派遣された。成果については、来年度 FIFA サッカーワールドカップ韓国・日本大会にあわせて開催する予定の特別陳列「日本列島と朝鮮半島の自然」展に他の成果とあわせて展示する予定である。また、学術成果や、共同研究の他の活動については別途発行される平成13年度共同研究成果報告書を参照いただきたい。麗南文化財研究所や韓国林業研究員をはじめ、協力いただいた韓国・日本の研究機関および個人に改めて感謝したい。

資料収集保管事業

I. 主な購入標本

■昆虫研究室

世界の大型甲虫類	405点
欧州産エンマムシ類同定標本	695点
ラオス産甲虫類	5,507点
ロシア産甲虫類等	1,722点
アフリカ・マラウィ産甲虫類	570点
(合計8,899点)	

■地史研究室

中・古生代植物化石	79点
鉱物	29点

II. 寄贈および交換標本

■動物研究室

甲子園浜産ヒダビル	1点	藤本龍之介氏
大阪湾産サビネミドリユムシ	48点	花岡 皆子氏
和歌山県白浜町産ミヤコドリガイ	2点	渡部 哲也氏
和歌山市城ヶ崎産イソヤムシ	2点	有山 啓之氏
奈良県産ダルマガエルおよびウシガエル	2点	井上 龍一氏
能勢町産モリアオガエル	1点	浦野 信孝氏
岬町産ツチガエル	1点	河上 康子氏
兵庫県川辺町産イモリ	1点	北口 繁和氏
大東市産マムシ	1点	西畑 敬一氏
貝塚市舊原産カジカガエル	1点	宮武 頼夫氏
明石産ホンコンマメガニ	2点	渡部 哲也氏
堺市産ニホンヤモリ	1点	増田 静子氏
四条畷市産カスミサンショウウオ	1点	石井 和子氏
大阪および奈良産両生爬虫類	4点	河上 康子氏
伊勢産両生爬虫類	3点	野尻湖友の会
茨木市産ヤマアカガエル	1点	榊田 初美氏
対馬産両生爬虫類	9点	
大阪市立自然史博物館友の会		
貝塚市産アオダイショウ	1点	南 幸雄氏
堺市産アオダイショウ	1点	岩崎 佳子氏
北摂産カエル類	2点	浦野 信孝氏
高槻市産ダルマガエル	1点	夏原 由博氏
河内長野市滝産両生爬虫類	7点	
大阪鳥類研究グループ		
藤井寺市産ニホントカゲ	1点	大久保卓哉氏

友ヶ島産カエル類	2点	
大阪鳥類研究グループ		
大阪市港区産アオダイショウ	1点	津村 氏
大阪南港野鳥園産無脊椎動物	8点	
河上 康子氏ほか		
大阪湾産カニ類稀産種	43点	野元 彰人氏
高知県産ケフサヒライソモドキ	2点	野元 彰人氏
宮古島および沖縄島産カニ類	26点	藤田 喜久氏
各種動物剥製、液浸標本	約50点	
大阪府立北野高等学校理科室		
北摂産両生爬虫類	3点	浦野 信孝氏
堺市および御所市産両生爬虫類	3点	
弘岡 和子氏ほか		
和泉市側川産ヤマカガシ	1点	田中多美子氏
枚方市産ヤマカガシ	1点	西畑 敬一氏
池田市産両生爬虫類	6点	今城香代子氏
池田市産ニホンアカガエル	1点	今城香代子氏
インドネシア産トラほか	2点	青木俊一郎氏
・松下電池工業株式会社		
鳥取県産オオミズナギドリ	1点	藤田 英美氏
大阪市北区産キジバトおよびスズメ	2点	小山 栄氏
枚方市産オオタカ	1点	上野 昭弘氏
堺市産カルガモ	1点	佃 十純氏
大阪市西淀川区産アオバト	1点	丸橋 寿夫氏
ヒクイドリほか	16点	
天王寺動植物公園		
能勢町産ルリビタキ	1点	小山 栄氏
大阪市鶴見区産キビタキ	1点	中谷 憲一氏
堺市産ホオジロほか	2点	小山 栄氏
大阪市東住吉区産スズメ	1点	
上杉麗未菜氏、志水 沙織氏		
大阪市西淀川区産アカハラ	1点	松下 宏幸氏
茨木市産コシアカツバメ	1点	杉之原専司氏
大阪市中心区産クロツグミ	1点	趙 哲済氏
三重県産ホトトギス	1点	竹中美佐子氏
和泉市産ヤマドリおよびリス	2点	玉田 和夫氏
河内長野市産ツバメおよびスズメ	2点	福岡 賢造氏
大阪市鶴見区産ムクドリ	1点	奥田 幸男氏
大東市産ハクセキレイ	1点	西畑 敬一氏
貝塚市産ハクセキレイ	1点	浦野 信孝氏
対馬産タシギ	1点	三宅 則子氏

資料収集保管事業

富田林市産ウグイス	1点	若杉みちよ氏	貝塚市産ムクドリ	1点	白木江都子氏
大東市産ムクドリ	1点	西畑 敬一氏	奈良県香芝市産タシギ	1点	山川 眞義氏
金剛山産オオルリ	5点	福岡 賢造氏	大阪城産ハシボソガラス	1点	
朝田於菟道鳥類コレクション	51点	梶 由美氏		名塩 佳江氏、名塩 千賀氏	
関西空港産アカショウビン	1点	坪内 晴美氏	枚方市産ツグミ	1点	山本 悟史氏
金剛山産マミジロほか	3点	福岡 賢造氏	大阪市平野区産メジロ	1点	石川嘉寿樹氏
大阪市長居産ムクドリ	1点	河合 真弓氏	■昆虫研究室		
神戸市垂水区産コヨシキリ	1点	柴田 保彦氏	奄美大島産ヒメバチ	10点	吉田 浩史氏
大阪市鶴見区産カワセミ	1点	中谷 憲一氏	日本産膜翅目昆虫	27点	吉田 浩史氏
富田林市産ゴイサギ	1点	岩崎 佳子氏	オオスズメバチ（女王）	1点	星野 安治氏
大阪城産ヤマシギ	1点		キイロスズメバチの巣	1点	
日本野鳥の会大阪支部			社会福祉法人 海の子学園		
堺市産ヤブサメほか	5点	浦野 信孝氏	対馬産膜翅目昆虫	12点	桂 孝次郎氏
対馬産両生爬虫類（その2）	3点		日本産昆虫類	25点	市川 顕彦氏
大阪市立自然史博物館友の会			マレーシア・台湾・中国産直翅類昆虫		
山口県岩国産クサガメ	1点	河上 康子氏		14点	市川 顕彦氏
茨木市産アオジ	1点	西川 喜朗氏	日本産ヒメバチ類	30点	吉田 浩史氏
ヤノウキホシハゼの副模式標本	1点	渋川 浩一氏	日本産昆虫類	11,000点	大石 久志氏
四条畷市産シロハラ	1点	弘岡 知樹氏	東南アジア産昆虫類	3,000点	大石 久志氏
メジロ	1点	片山めぐみ氏	日本産昆虫類（膜翅類、双翅類）	119点	吉田 浩史氏
大阪市東住吉区産ヤマシギ	1点	伊藤 慧氏	大阪府産ハバチ同定標本	49点	吉田 浩史氏
河内長野市産アオジ	1点	福岡 賢造氏	日本産膜翅目昆虫	96点	河上 康子氏
堺市産シジューカラ	2点	小山 栄氏	日本産昆虫（膜翅・長翅・脈翅）	74点	河上 康子氏
明石市産ユリカモメほか	3点		ロシア産ハチ目	25点	春沢圭太郎氏
河上 康子氏、古谷 菜木氏			日本産ハチ目	15点	春沢圭太郎氏
八尾市産ユリカモメ	1点	土井 妙子氏	日本産ハチ目	7点	桂 孝次郎氏
大東市産ハイタカ	1点	佐々木 勇氏	日本産ハチ目	9点	吉田 浩史氏
神戸市産鳥類など	17点	山中 大介氏	日本産アリ類タイプ標本	7点	小野山敬一氏
岬町長崎海岸産海岸動物	15点		ネパール産アリ類タイプ標本	2点	小野山敬一氏
大阪湾海岸生物研究会			ハサミムシ類コレクションなど	30,854点	酒井 清六氏
大阪市東淀川区産カモメ	1点	岡本 雄大氏	世界の蝶・蛾・甲虫類	40,010点	岡村 宏一氏
島根県産ノスリおよびトビ	2点		大阪城公園の昆虫類	151点	大宮 文彦氏
宮川五十雄氏、石本 賢治氏			台湾のハムシ	14点	山本 博子氏
沖縄県産鳥類ほか	10点	西村 昌彦氏	ハネカクシ類模式標本	8点	林 靖彦氏
四条畷市産シロハラ	1点	西畑 敬一氏	ヨナグニジウジクロカミキリ	1点	田端 修氏
貝塚市産ヤブサメ	1点	白木江都子氏	神戸のヒラズゲンセイ	4点	小菅 佳子氏
大阪市南港産キジバト	1点		長野県のクワガタムシとテントウムシ		
河上 康子氏ほか				2点	松田 哲弥氏
大阪市東成区産メジロ	1点		クマゼミ交尾中の死体	2点	角井 義和氏
奥田 悠太氏、奥田 幸江氏			セラネクイハムシの副模式標本	2点	小宮 義璋氏
奈良県産コミミズク	1点	山川 眞義氏	日本産昆虫類	22点	藤井 俊夫氏
堺市産ルリビタキ	1点	清水 俊雄氏	鳥取県辰巳峠産カメムシ化石	1点	林 成多氏

オオキノコムシ科甲虫のタイプ標本

2点 生川 展行氏

東南アジア産半翅類 10点 林 靖彦氏

コガネムシ科甲虫類模式標本ほか

10点 伊藤 武氏

ハナノミ科甲虫 1点 秋田 勝巳氏

ツマキオオヒメテントウ 5点 大橋 和典氏

近畿地方産昆虫類 54点 宮武 頼夫氏

吹田市産ナガサキアゲハ 1点 伊藤 精久氏

ムツキボシテントウ 1点 竹中 冬翔氏

■植物研究室

寄贈および交換(*)標本、レッドデータブック近畿研究会が行っている「近畿地方の保護上重要な植物(1995)」の改訂編集作業に関連して、近畿地方産絶滅危惧植物の証拠標本寄贈が顕著であった。

宝塚市産植物 1点 西畑 敬一氏

滋賀県産ハイハマボス 1点 森 小夜子氏

大阪府産植物 23点 平野 弘二氏

栃木県産植物 1点 織田 二郎氏

北河内産水生植物・帰化植物他 12点 田中 光彦氏

北海道産植物 2点 富永 修氏

日本産植物 31点 平野 弘二氏

泉州産植物 7点 清水 千尋氏

大東市産植物 1点 西畑 敬一氏

兵庫県産植物 6点 桂 孝次郎氏

三重県産植物 3点 加田 勝敏氏

泉州産水生植物他 12点 上久保文貴氏

三重県産植物 2点 加納 康嗣氏

泉南市産カモノハシ 2点 中村 進氏

徳島県産オオミズヒキモ他 4点 木下 覚氏

沿海州産植物 19点 初宿 成彦氏

北河内産帰化植物 1点 田中 光彦氏

日本産植物 200点

梅原 徹氏・丸井 英幹氏

琉球列島産植物 2点 沢田 佳久氏

大阪府産オオアカウキクサ 2点 武士 良三氏

大阪府産植物 8点 植村 修二氏

淡路島産アカウキクサ 2点 南光 重毅氏

奈良県産ヤマトミクリ 1点 富永 明良氏

枚方市産ニワフジ 1点 宮武 頼夫氏

金剛山産ホソバアマナ 1点 楠井 陽子氏

堺市産植物 32点 平野 弘二氏

大阪府産スゲ属植物 1点 織田 二郎氏

大阪府産ヒメミクリ他 4点 田中 光彦氏

日本産植物 5点 西畑 敬一氏

京都府産ヒロハテンナンショウ他 2点 奥田 幸男氏

大阪市産マツヨイグサ属 1点 梅原 徹氏

貝塚市産ヒルムシロ属 2点 石井 久夫氏

日本産植物 50点 小林とみ樹氏

和歌山県産フユザンショウ 1点 山本 博子氏

日本産植物 300点 頌栄短期大学*

日本産植物 200点

大花明山植物園*

日本産植物 100点

高知県立牧野植物園*

日本産植物 300点

都立大学牧野標本館*

日本産菌類標本 100点

関西菌類談話会

河内長野市産変形菌標本 250点 田中久美子氏

ハルシメジほか菌類標本 150点 小林 久泰氏

春日山産菌類標本 約300点 丸山健一郎氏

京都産菌類標本 100点 相良 直彦氏

■地史研究室

神戸層群産植物化石 1点 岡本 朋子氏

鳥取県産鳥化石 4点 宮本 淳一氏

神戸層群産植物化石 3点

米阪 紀雄・山本 順一氏

マンモスの毛 1点

G.G. Boeskorov 氏

ロシア・サハリン州(樺太)産アンモナイト化石

2点 谷口喜美子氏

高槻市出灰産サンゴ化石他 548点 牧野 俊雄氏

■第四紀研究室

大阪市内ボーリング資料 47件 都市整備局

兵庫県南部地震に関連の調査による深層コア

13カ所分 大阪市立大学より移管

兵庫県南部地震に関連の調査による沖積コア 1件

独立法人産業総合研究所活断層調査センター

Ⅲ. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は山西…Y, 波戸岡…Hと略記する。愛知県
日間賀島で海岸動物を採集 (8月, Y, H)
鹿児島県志布志町で魚類を採集 (10月, H)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集, 大阪府産昆虫の完全な収集等の
目的で, 担当学芸員(金沢-K, 初宿-S, 松本-Mと
略記)が行った出張は次の通りである。便宜上, 調査研究
や資料収集のためばかりでなく, 普及行事やその予備調査
の際の出張も含めて記した。

4月4日	岬町平井峠	ハチ類 (M)
4月5日	滋賀県北部	ネクイハムシ調査 (S)
4月7・8日	兵庫県波賀町	甲虫類 (S)
4月22日	高槻市三島江	昆虫全般 (M)
5月4日	滋賀県朽木村	ハチ類 (M)
5月7日	鳥取県江府町大山	昆虫全般 (M)
5月10日	滋賀県草津市	甲虫類 (S)
5月12日	河内長野市	昆虫全般 (M)
5月18日	滋賀県大津市	甲虫類 (S)
5月18日	滋賀県志賀町比良山	ハチ類 (M)
5月20日	兵庫県波賀町	甲虫類 (S)
5月24日	大阪府阪南市山中溪	昆虫全般 (M)
5月25日	泉南方面	甲虫類 (S)
5月26・27日	兵庫県三田市	甲虫類 (S)
5月27日	金剛山	トンボ類 (K)
6月1日	金剛山	ハムシ類 (S)
6月3日	兵庫県三田市	テントウムシ類 (S)
6月9～10日	兵庫県波賀町	昆虫全般 (S・M)
6月16・17日	広島県芸北町	甲虫類 (S)
6月17日	豊能町初谷	昆虫全般 (M)
6月18～22日	長崎県対馬	昆虫全般 (M)
6月21日	東大阪市枚岡公園	蝶蛾類 (K)
6月23日	高槻市原	セミ (S)
6月24日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般 (K・M)
6月26～28日	長崎県対馬	甲虫類 (S)
7月2日	和歌山県九度山町高野下	昆虫全般 (M)
7月6～8日	北海道札幌市	昆虫全般 (M)
7月7日	長崎県壱岐	甲虫類 (S)
7月11・12日	滋賀県近江八幡市ほか	甲虫類 (S)
7月12日	河内長野市蔵王峠	水生昆虫 (M)

7月15日	京都府笠置山	甲虫類 (S)
7月17日	兵庫県南淡町	ハチ類 (M)
7月18日	河内長野市光滝	昆虫全般 (M)
7月22日	淀川区西中島	トンボ類 (K)
7月22日	兵庫県波賀町	昆虫全般 (M)
7月23日	鳥取県江府町大山	昆虫全般 (M)
7月24日	兵庫県南淡町	ハチ類 (M)
7月30日	貝塚市和泉葛城山	ハチ類 (M)
8月4日	和歌山県高野町	昆虫全般 (M)
8月7～17日	ロシア沿海州・韓国	甲虫類 (S)
8月10～12日	長崎県対馬	昆虫全般 (M)
8月13日	福岡県福岡市背振山	ハチ類 (M)
8月15日	鳥取県江府町大山	ハチ類 (M)
8月19日	滋賀県びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)
8月23日	和歌山県和歌山市片男波	ハチ類 (M)
8月25日	長居植物園	灯火の昆虫類 (S)
8月27日	能勢町剣尾山	スズメバチ類 (M)
8月30日	京都府美山町芦生	ハチ類 (M)
9月2日	西区鞆公園	セミのぬけがら (S・M)
9月6日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)
9月12日	滋賀県志賀町比良山	ハチ類 (M)
9月13日	高槻市やまぶき溪谷	昆虫全般 (M)
9月15日	東大阪市枚岡公園	セミのぬけがら (S)
9月19日	仙台市太白区	昆虫化石 (S)
9月19, 23日	仙台市	ハチ類 (M)
9月26日, 10月8日	枚方市磯島	バッタ類 (K)
9月27日	和歌山県かつらぎ町三国山	ハチ類 (M)
10月2日	鳥取県江府町大山	ハチ類 (M)
10月5～6日	長野県大鹿村	昆虫全般 (M)
10月13～14日	愛媛県面河村石鎚山	ハチ類 (M)
10月15日	鳥取県江府町大山	ハチ類 (M)
10月18, 20日	高槻市摂津峡	アサギマダラ (K)
10月19日	羽曳野市石川	昆虫全般 (M)
10月21日	高槻市やまぶき溪谷	昆虫全般 (M)
10月31日	京都府八幡市三川合流	昆虫全般 (M)
11月17日	滋賀県大津市	ユスリカ (S・M)
11月28日	鳥取県江府町大山	昆虫全般 (M)
11月23日	奈良県室生村	水生昆虫 (S)
11月30日	滋賀県甲西町	昆虫化石 (S)
12月3～4日	愛知県豊橋市・田原町	ミズヒマワリ (K)
12月8日	長居植物園	昆虫全般 (M)

12月19日	泉佐野市滝ノ池	ミノガ調査 (M)	8月21～24日	韓国	岩石 (K)
12月22～26日	香港	マダラチョウ類 (K)	9月24～28日	韓国	現生植物, 岩石 (G)
12月29日～1月3日			10月9～14日	北海道浦幌町	中生代放散虫化石 (K)
	沖縄本島	ハチ類 (M)	11月4日	大阪府豊能郡能勢町豊能鉾山 (廃坑)	バラ輝石など (T)
1月5日	高槻市鶴殿	昆虫全般 (M)	11月18日	福井県勝山市北谷町杉山	中生代植物化石 (G)
2月4日	高槻市鶴殿	ハチ類 (M)	11月23～24日	奈良県川上村	岩石 (K, G)
2月15日	高槻市鶴殿	ハチ類 (M)	2002年2月28日		
3月17日	東大阪市枚岡公園	キリガ類 (M)		佐賀県肥前町阿漕	新生代植物化石 (G)
■植物研究室			3月1日	山口県美祢市	中生代植物化石 (G)
調査研究なども含めた資料収集のうち、以下に主なものを記す。本年度は、地域自然誌展示室準備のための資料収集と科研費関連の調査が顕著であった。担当学芸員は、藤井…F、佐久間…Sと略記する。			■第四紀研究室		
4月17日	滋賀県マキノ町	(F)	担当学芸員名は石井久夫…IH、石井陽子…IY、中条武司…Nと略記する。		
4月19日	三重県橿田川	(F)	4月13日	柏原市石川	河床の礫 (N)
4月25日	滋賀県安曇川デルタ	(F)	5月12日	三重県久居市	中新世貝化石 (IH)
5月11日	滋賀県霊仙山	(F)	6月9日	兵庫県成が島	現生貝類 (IH)
5月11～14日・7月10～13日			6月20・21日	山口県山口湾	現生貝類 (IH)
	長崎県対馬	(S)	6月23・24日	三重県松阪市櫛田川	現生貝類 (IH)
5月16～18日	和歌山県紀伊大島	(F)	7月21・22日	松阪市櫛田川・鳥羽市	現生貝類 (IH)
5月21日	三重県櫛田川・藤原岳	(F)	7月25日～8月3日		
5月22日	滋賀県今津町・志賀町	(F)		大韓民国慶尚南道密陽市	分析試料 (IY)
6月1日	大阪府妙見山	(F)	7月31日	柏原市石川	河床の礫 (N)
6月27日, 7月2・9・14・23日, 9月13日			8月4日	仙台市蒲生干潟	現生貝類 (IH)
	三島郡島本町若山神社	(S)	8月6日	鶴岡市	中新世化石 (IH)
7月2・9・23日, 8月20日			10月15日	北海道長万部	第三紀化石 (IH)
	京都市東山蹴上	(S)	10月25日	岸和田市	大阪層群の火山灰層 (IY)
7月30日	京田辺市	(S)	12月15・16日	鳥取県倉吉市, 関金町	大山起源の中上部更新統火山灰層 (IY)
8月7～10日	熊本県松島町	(F)	12月16日	和歌山県湯浅町	中生代軟体動物化石 (川端・N)
9月22～27日	韓国ソウル・江原道周辺	(S)			
10月16日～11月23日			3月21・22日	鹿児島市	火砕流堆積物 (IY)
	インドネシア共和国スマトラ島	(F)	3月23日	英国ロンドン	フリント (IH)
■地史研究室			3月24日	英国ロイ	現生貝殻 (IH)
担当者名 樽野…T、川端…K、塚腰…G、中条武司…Nと略記する。			3月26・27日	英国カーディフ	現生植物 (IH)
4月15日	奈良県奈良市春日山		3月24～26日	大分県大分市・竹田市・荻町	火山灰層・火砕流堆積物 (IY)
	含ザクロ石領家片麻岩など	(T)			
4月22日	岐阜県瑞浪市	瑞浪層群岩石 (G)			
8月6日～7日	石川県白峰村	中生代植物化石 (G)			
8月10～12日	長崎県三根町 (対馬)				
		新生代岩石 (K, N)			
8月14日	岡山県成羽町	硯石層群岩石 (G)			

IV. 業務委託による収集

業務名：大阪湾ベントス採集・検定業務

採集水域：大阪湾内17地点

採集方法：スミスマッキンタイア型採泥器を使用し、1地点当たり3回採泥する。船上で、各々の試料について、0.5mm目の篩を用いて泥を洗い流し、篩上に残ったベントスをホルマリン固定し、持ち帰る。持ち帰ったベントス試料を選別・同定し、種ごとに計数する。

採集時期：平成13年5月1日から同年5月31日までの期間。

V. 現有資料数

■動物研究室（平成13年度末）

海綿動物	113点
刺胞動物・有櫛動物	656点
扁形・紐形動物	286点
触手動物	135点
環形動物	5,141点
甲殻類	10,158点
軟体動物	24,161点
棘皮動物	2,154点
原索動物	430点
その他無脊椎動物	800点
魚類	15,881点
両生類	20,297点
爬虫類	4,320点
鳥類・哺乳類	3,732点
(計)	88,264点

■昆虫研究室（未登録標本を含む）

標本総計 654,470点（平成13年度末時点）

（日本産 468,879点、外国産 185,591点）

日本産昆虫	平成13年度末
Plecoptera カワゲラ目	432
Ephemeroptera カゲロウ目	130
Odonata トンボ目	17,607
Mantodea カマキリ目	340
Orthoptera 直翅目	10,592

Phasmida ナナフシ目	445
Dermaptera ハサミムシ目	461
Grylloblattodea ガロアムシ目	22
Blattodea ゴキブリ目	444
Isoptera シロアリ目	86
Embioptera シロアリモドキ目	25
Psocoptera チャタテムシ目	335
Thysanoptera アザミウマ目	24
Heteroptera 異翅類（カメムシなど）	27,411
Homoptera 同翅類（セミなど）	13,352
Neuroptera 脈翅目	1,425
Mecoptera シリアゲムシ目	1,642
Trichoptera トビケラ目	2,130
Heterocera 蛾（ガ）	30,335
Rhopalocera 蝶（チョウ）	39,155
Coleoptera 甲虫目	243,776
Diptera ハエ目	23,133
Hymenoptera ハチ目	39,293
その他（各目）	16,284
(計)	468,879

外国産昆虫

蝶（チョウ）	77,538
蛾（ガ）	7,606
膜翅目（ハチ）	4,845
双翅目（ハエ）	706
甲虫	55,415
脈翅目（ウスバカゲロウなど）	46
同翅類（セミなど）	5,761
異翅類（カメムシなど）	1,924
直翅型昆虫	2,558
トンボ	1,240
カワゲラ	66
その他（各目）	3,098
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション（日本産含む）	12,439
韓国産昆虫コレクション（西川・桂・富永氏）	1,506
アフガニスタンの昆虫（有田 豊氏他）	6,143
(計)	185,591

■植物研究室（平成13年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物腊葉標本	199,563
蕨類標本	34,730
苔類標本	23,000
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	3,350
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	282,830

■地史研究室（登録済標本数）平成13年度末

岩石	1,249点
鉱物	2,266点
脊椎動物化石	1,515点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	1,665点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放散虫化石	135点
古生代植物化石	149点
中生代植物化石	230点
第三紀植物化石	1,791点
(計)	28,211点

■第四紀研究室（登録済標本数）平成13年度末

人類遺物	29点
植物化石	17,812点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941(種)
現生シダ植物胞子	362(種)
無脊椎動物化石	3,564点
大阪市内ボーリング資料	1,370(件)
(計)	25,772点(件・種)

VI. 収蔵資料目録の発行

■大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第34集

川副昭人・金沢 至・山本博子著

「大阪府の蛾類（2）－シャチホコガ科－」

大阪府に産する蛾類のうち、シャチホコガ科の標本採集データ・文献記録、核型データと解説が掲載されている。

B 5 版，モノクロ核型図78図。平成14年3月31日発行。販売価1,000 円。

VII. 自然史図書の収集

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人・団体・自治体等からの単行本、各種報告書等の寄贈や購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類はこれまで主として普及センターに配置していたが、一部をのぞいて大半を新しくオープンした情報センターに移し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問に使用されている。専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。また、コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制の準備を始めている。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力、平成13年度（2001年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこない、国内の刊行物については過去に遡及して入力を行っている。

平成13年度中にデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、3,640部で、平成13年度末現在の入力済み収蔵数は9,904部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成13年度に4,398冊、平成13年度末現在の累計132,601冊である。

1. 個人・機関からの受贈（交換分は除く、敬称略、登録順）

●個人：若杉孝生、宮道慎二、上田俊穂、井上 清、青

木良輔, 太田英利, 谷角素彦, 青山潤三, 松村 勲, 原口光雄, 安藤善之, 波部忠重, 大屋 崇, 森 正人, 益田晴恵, 吉岡一郎および館員(松本吏樹郎, 佐久間大輔, 山西良平, 金沢 至, 樽野博幸, 岡本素治, 初宿成彦)

●民間団体, 出版社, 企業など: 宮武頼夫さん退職記念論文編集委員会, キッズプラザ大阪, 日本捕鯨協会, 平凡社, (株)環境調査研究所, 実業之日本社, 理化学研究所, ゼンリン, 毎日新聞大阪本社総合事業局, 加藤建設株式会社埋蔵文化財調査部, 比婆科学教育振興会, 日本生命財団,

●政府機関及び自治体など: (財)日本科学技術振興財団, 文部科学省科学技術・学術政策局, 国立科学博物館教育部, 筑紫野市史編纂委員会, 大屋町, (財)科学技術広報財団, 神戸市環境局, 宇宙開発事業団, 中華民国台湾省水産試験場, 魚津埋没林博物館, (財)つくば科学万博記念財団, (財)大阪科学技術センター

2. 購入等によるもの

●図書購入費による購入

平成13年度 121冊 736,490円

●消耗品費による購入

国内雑誌 科学など 9誌

外国雑誌 Copeia など 8誌

[平成13年度購入雑誌]

国内: 科学, 遺伝, 生物科学, 海洋と生物, 月刊地球, 別冊地球, 月刊海洋, 別冊海洋, 岩鋳.

外国: Copeia, Curator, Taxon, Evolution, Pacific Science, Systematic Biology, Geological Magazine, Journal of Paleontology

●学会への加入による収集

16学会へ団体会員として加入し, 会誌を収集した. 学会名は以下の通りである. この他にも, 多く収集すべき学会が国内外に多数あるが, 予算の状況から入会できていないのが現状である.

日本応用動物昆虫学会 (日本応用動物昆虫学会誌, Applied Entomology and Zoology)

日本動物学会 (動物学雑誌)

日本生態学会 (日本生態学会誌)

日本生物地理学会 (日本生物地理学会会報)

日本衛生動物学会 (衛生動物)

日本魚類学会 (魚類学雑誌)

日本植物学会 (Journal of Plant Research)

日本遺伝学会 (遺伝学雑誌)

日本藻類学会 (藻類)

日本陸水学会 (陸水学雑誌)

日本地質学会 (地質学雑誌)

日本第四紀学会 (第四紀研究)

日本古生物学会 (Paleontological Research)

日本地学研究会 (地学研究)

日本博物館協会 (博物館研究)

全国科学博物館協議会 (全科協ニュース)

国際トンボ学会 (ODONATOLOGICA)

この他, 交換により, 会誌を受領している学会も多い.

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集) Nature Study と交換に, 国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており, 各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた. 平成13年度に交換・寄贈により入手した逐次刊行物・調査報告書等は, 4,398冊である.

■研究報告など出版物の配布

本年度は刊行物の配布をおこなっていない.

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行なっている。今年度は花と緑と自然の情報センターの開設備作業およびオープン時の混乱が予想されたため、計画時に毎月定例の行事以外は例年より回数を減らしている。一方、花と緑と自然の情報センターのオープンを契機に、長居植物園にすむ鳥や昆虫などを観察対象とした「植物園案内：動物・昆虫編」がスタートしている。

観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている（**印）。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行なうために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事等に導入している（*印）。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行なうのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

昨年同様、大きく定員を超過している状態が続いている。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑の生き物」* 高槻市

4月22日 申込211名（当選159名） 参加者103名

「海べのしぜん」*, ** 岬町長崎海岸

5月27日 申込317名（当選317名） 参加者171名

「バッタのオリンピック」** 枚方市淀川河川敷

10月8日 申込250名（当選125名） 参加者89名

「ドングリひろい」* 豊能町

10月22日 申込316名（当選152名） 参加者47名

「化石さがし」泉佐野市

11月28日 申込314名（当選148名） 参加者102名
5テーマ5回実施 延べ参加者数512名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。今年度は大阪府下とともに、近畿周辺地域を題材として取り上げた。

「山中溪」阪南市

6月3日 申込44名（当選44名） 参加者35名

「櫛田川河口」三重県松阪市

6月23日 申込23名（当選23名） 参加者13名

「比良山」滋賀県志賀町

9月30日 申込95名（当選62名） 雨天中止

「やまぶき溪谷」島本町

10月21日 申込67名（当選67名） 参加者54名

4テーマ3回実施 のべ参加者数102名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしばって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「ハチのお家をつくろうー竹筒トラップをを使ったハチの観察ー」大阪市長居公園

4月1日 申込52名（当選40名） 参加者34名

「チョウ・ガの幼虫」東大阪市枚岡公園

6月24日 申込74名（当選74名） 参加者33名

「今できている地層：川編」* 柏原市大和川・石川

7月1日 申込37名（当選37名） 参加者31名

「照葉樹林のキノコ」河内長野市

7月8日 申込82名（当選82名） 参加者63名

「ビルの化石・石材」* 大阪市中心斎橋

7月22日 申込102名（当選102名） 参加者91名

「ハチのお家をのぞいてみようー竹筒トラップをを使ったハチの観察2ー」大阪市長居公園

8月5日 申込76名（当選48名） 参加者38名

「ツバメのねぐら」大阪市城北公園

8月19日 申込103名（当選103名） 参加者75名

「今できている地層：海編」* 和歌山市片男波海岸

10月14日 申込17名（当選17名） 参加者13名

「びわこ虫の蚊柱」大津市

11月17日 申込17名(当選17名) 参加者10名

「湖北町の冬鳥」滋賀県湖北町

1月20日 申込33名(当選33名) 参加者24名

10回実施 のべ参加者数412名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「種子と果実のつくり」*

12月16日 申込12名(当選12名) 参加者11名

「魚のからだ」

2月3日 申込11名(当選11名) 参加者9名

「大阪のハムシの見分け方」*

2月10日 申込20名(当選20名) 参加者12名

3回実施 延べ参加者数32名

■野外実習

野外における自然観察から得られたデータがどのような意味を持つのかなど、分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の野外調査(1) ラインセンサス」

6月10日 申込15名(当選15名) 参加者12名

「鳥の野外調査(2) 定点観察」

7月22日 申込25名(当選25名) 参加者15名

「鳥の野外調査(3) 水鳥のカウント」

12月9日 申込28名(当選28名) 参加者25名

■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察を行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。

4月28日(土)* 84名

5月5日(土)* 66名

6月2日(土)* 76名

7月7日(土)* 68名

8月4日(土)* 30名

9月1日(土)* 68名

10月6日(土)* 77名

11月10日(土)* 16名

12月1日(土)* 65名

1月12日(土)* 61名

2月2日(土)* 52名

3月2日(土)* 88名 12回実施 延べ参加者数751名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

花と緑と自然の情報センターのオープンを機に、長居植物園の自然により親しんでもらおうとする行事。季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらうねらいがある。毎月第2あるいは第4土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」* 4月28日 63名

「春のチョウ」 5月12日 73名

「繁殖している鳥」* 6月9日 31名

「植物園の花に来る昆虫」 7月14日 48名

「長居植物園でライトトラップ」 8月25日 84名

「ダンゴムシとワラジムシ」 9月8日 31名

「秋の渡り鳥」* 10月13日 43名

「初冬の鳥」* 11月10日 34名

「冬越しの虫」 12月8日 47名

「冬鳥」* 1月12日 55名

「冬鳥」* 2月9日 60名

「早春の植物園の虫」* 3月23日 109名

12回実施 延べ参加者数678名

■科学映画会

毎土曜(午後2時)、日曜・祝日(午前11時・午後2時)に実施しており、入館者サービスの一環として考えている。当館講堂にて上映。上映とあわせて当館学芸員が簡単な解説を行なっている。

4月 「バレドパラドキシア —よみがえる

謎の化石動物— 985名(10日16回)

5月 「第二の自然環境・水田」 833名(10日17回)

6月 「水中の植物・陸上の植物 —シダ植物の

生活をとおして— 664名(9日13回)

7月 「モリアオガエルの誕生

—謎の樹上生活— 825名(10日16回)

8月 「東洋のガラパゴス」 876名(8日12回)

9月 「カブトガニ —地球の主— 883名(11日18回)

10月 「花と受粉」	339名 (9日14回)
11月 「生物のつながりと食物連鎖」	315名 (7日11回)
12月 「虫の一生」	446名 (9日14回)
1月 「全地球ダイナミクス —地球10億年のシナリオ—	509名 (8日12回)
2月 「地球の砂漠化」	473名 (9日14回)
3月 「クモの世界」	832名 (11日17回)
111日174回実施 延べ観覧者数7980名	

■自然史講座

当館学芸員が自らの調査・研究の成果をもとに自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館集会室で毎月第2土曜日の午後3時～4時30分に開催した。また、今年度は特別展「レッドデータ生物 失われゆく自然と生きもの」に合わせて、9月に2度実施した。近年は参加者が増加し、自然に関する学習機会の需要が高まっているように思える。集会室の定員(50～60名)では充分に対応できないほど多数の参加があることも珍しくない。

4月14日 「干潟のできかた」	中条武司	37名
5月12日 「花の進化と科の特徴」	岡本素治	88名
6月9日 「日本のゾウ化石と中国のゾウ化石」	樽野博幸	28名
7月14日 「大阪で見られるハチとその生活」	松本吏樹郎	43名
8月11日 「生態生物地理学」	藤井伸二	44名
9月9日 「近畿地方の鳥類のレッドデータブック」	和田岳	44名
9月22日 「干潟のレッドデータ生物 —大陸沿岸系遺存種の視点から—	山西良平	20名
10月13日 「火山灰層のふるさと訪問記」	石井陽子	33名
11月10日 「植物の根と共生する菌」	キノコの生き方2 佐久間大輔	70名
12月8日 「周日本海の昆虫たち」	初宿成彦	29名
1月12日 「化石からさぐる陸上植物の起源と進化」	塚腰 実	53名
2月9日 「生きている放散虫(2) 紀伊水道の放散虫」	川端清司	30名
3月10日 「アサギマダラの移動とミズヒマワリ」	金沢 至	39名
13回実施 延べ参加者数514名		

■標本同定会

子どもたちが夏休みに採集して作成した標本について、その名前を教える行事。生物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。館外から多数の専門家の協力を得て、毎年8月下旬に実施している。2001年は8月26日(日)に実施した。

同定件数 109件

植物 (菌類を含む)	32件
昆虫 (クモなど含む)	41件
貝・他の動物	13件
化石	9件
岩石・鉱物	14件
計	109件 178名

過去数年の同定件数と参加者数

平成13(2001)年	109件	178名
12(2000)年	121件	253名
11(1999)年	147件	245名
10(1998)年	125件	245名
9(1997)年	100件	177名
8(1996)年	141件	274名
7(1995)年	110件	163名

■講演会

今年度は、館主催の特別展普及講演会以外に、博物館開設50周年記念講演会など多彩な講演会を開催し、多数の市民に聴講いただき、好評をえた。

1. 特別展普及講演会

「水辺の自然の危機 —水田とため池の生きもの—」

日時：9月9日(日)

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「トンボ ほろぼすのも我々 のこすのも我々」

井上 清(国際トンボ学会 会長)

「身近な魚の様々な危機：現状と展望」

森 誠一(岐阜経済大学)

「水田環境の変化とカエル類の衰退」

平井利明(京都大学)

「ウェットランドの植物、

失われたもの・よみがえったもの」

梅原 徹(環境設計株式会社)

参加者：139名

2. 50周年記念講演会「博物館むかし・いま」

(共催：NPO 法人大阪自然史センター、大阪市立自然史博物館友の会)

日時：9月15日(土・祝)

会場：自然史博物館 講堂

講師：

梅棹忠夫(国立民族学博物館顧問、財団法人千里文化財団会長)

千地万造(当館元館長、きしわだ自然資料館館長)

参加者：130名

3. 普及講演会「花粉の科学」

(共催：日本花粉学会、NPO 花粉情報協会)

日時：11月4日(日)

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「花粉と生活」

渡辺光太郎(京都文教短期大学名誉教授、(財)京都園芸倶楽部会長)

「花粉から読む植生の移り変わりと人の影響」

高原 光(京都府立大学農学部附属演習林)

「花粉症の現状と増加の原因」

榎本雅夫(日本赤十字社和歌山医療センター耳鼻咽喉科部長、NPO 花粉情報協会理事)

参加者：80名

4. 日本植物分類学会関西地区講演会

(共催：日本植物分類学会)

日時：2000年1月20日(日)

会場：自然史博物館 講堂

演題・講師：

「ヤブガラシの2倍体と3倍体について」

岡本素治(大阪市立自然史博物館)・

岡田 博(大阪市大・植物園)

「ジャゴケ類の分類」

美和秀胤(京大・理・植物)

「シダ植物の理想の分類をめざして」

村上哲明(京大・理・植物)

「植物用語の歴史」

北川尚文(奈良産業大)

「GISを用いた自然環境情報の活用方法」

高野温子・三橋弘宗・鈴木武・永吉照人

(兵庫県立人と自然の博物館)

参加者：70名

5. 地球科学講演会

(共催：産業技術総合研究所地球科学情報研究部門・地学団体研究会大阪支部)

日時：2月17日(日)

演題・講師：

「近畿地方の地殻変動を読み解く」

—近畿地方の活断層研究と活構造図—

水野清秀(産業技術総合研究所 活断層研究センター)

会場：自然史博物館 講堂

参加者：250名

■ドキドキ子ども自然史ウォッチング

社会教育施設の無料解放により、博物館の利用機会の増した小中学生を対象に1995年から実施している。展示だけでなく、研究施設・収蔵施設などを含めた館内見学や実習により、博物館と自然史科学に親しみきっかけを作ることとしている。冬の小学生向けの「博物館たんけんコース」、夏の中学生向けの「学芸員体験コース」いずれも大阪市内の小中学校全生徒に配付される広報誌「タッチ」に掲載され、幅広い応募がある。今年度からは新たに高校生向けの行事として、中学生向けの「学芸員体験コース」をより高度な内容で取り組む「高校生のための博物館実習」を企画した。収蔵施設などの見学の安全確保、実習の進行などには補助スタッフの協力におうところが大きい。

1. 博物館たんけんコース*

裏方(実験室や収蔵庫など)を中心とする館内見学とスクラッチカードによる展示見学。ふだんは見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。1月13日、14日の2日間に渡って2回実施した申込総数 67名

第1回 1月13日(日)

参加者27名

第2回 1月14日(月・祝)

参加者31名

延べ参加者数 58名

2. 学芸員体験コース(中学生向け)*

3日間連続の実習。学芸員があらかじめ用意した課題に基づき、学芸員と補助スタッフの指導のもと野外調査を行い、この結果をまとめ、展示として作成した。2001年は当初の予定では、和歌山県高野町で自然観察に基づくハイキングマップを作成する予定であったが、台風の来訪により初日を中止にすると同時に、内容を台風漂着

物を探すということに変更した。観察場所も和歌山市片男波海岸に変更して行った。

自分の目と手で調べた調査を展示として作成、発表することで、自然に対する探究心と科学的な観察力を育てることをねらいとしている。また学芸員の仕事と博物館の活動を体験的に理解してもらおうプログラムとしても位置付けている。1998年からこの形式で実施している。

8月23～25日 申込14名(当選14名)参加者12名

3. 高校生のための博物館実習(高校生向け)

2日間連続の実習。基本的に大学から受け入れている博物館実習と同レベルの実習内容として、オリエンテーションの後、各分野(植物化石・昆虫・植物)の標本作製や処理作業などを体験してもらった。

8月16・17日 申込10名(当選10名)参加者8名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談(1999年2月20日)を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒に行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始した。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2002年3月31日現在の部員数は、168名。

●2001年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を、学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。その結果、2001年度は年間13回の行事を企画し、12回実施した。部員の参加者数は、のべ134名。

「自然史博物館の裏方探検」

大阪市立自然史博物館 4月9日 16名

「浜甲子園のシギ・チドリ類観察会」

西宮市浜甲子園 4月29日 9名

「ミーティング 第2回」

大阪市立自然史博物館 5月3日 12名

「昆虫採集 in 初谷 豊能町初谷」 6月17日 7名

「夏休みだよ!いそ観察」

岬町長崎海岸 7月21日 6名

「博物館で標本実習」

自然史博物館 8月7日 17名

「ミーティング 第3回」

自然史博物館 9月24日 19名

「秋の丘陵」 奈良県矢田丘陵 10月7日 9名

「河原でカヤネズミの巣を探そう!」

淀川三川合流 11月3日(雨天中止)

「ジュニアの地層と化石の観察」

和歌山県有田郡湯浅町 12月16日 13名

「河原で焼き芋とカヤネズミの巣探し」

高槻市淀川鶴殿 1月5日 5名

「昆陽池の水鳥とヌートリア観察」

伊丹市昆陽池 2月3日 5名

「ミーティング 第4回」

大阪市立自然史博物館 3月21日 16名

■教員向けの「総合的な学習の時間」研修プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまることなどから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まると考えられる。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。

「大阪の自然誌展示室の案内」

花と緑と自然の情報センター 5月9日 参加 3名

「大阪の自然誌展示室の案内」

花と緑と自然の情報センター 5月16日 参加 3名

「大阪の自然誌展示室の案内」

花と緑と自然の情報センター 5月26日 参加 8名

「大阪の自然誌展示室の案内」

花と緑と自然の情報センター 5月30日 参加 8名

「淀川河口の生物」

大阪市西中島南方 6月3日 申込 8名、参加 6名

「初夏のキノコ」

大阪城公園 7月18日 申込 5名、参加 3名

普及教育事業

「セミのぬけがらのしらべ方」

東大阪市枚岡公園 9月15日 申込 5名, 参加 3名

「火山灰」

和泉市および自然史博物館

11月25・26日 申込11名, 参加 8名

「自然観察のためのインターネット利用入門」

自然史博物館 1月30日 申込12名, 参加12名

「川の地形と河原の石ころ」

柏原市石川 2月3日 申込 9名, 参加 8名

7テーマ10回実施 延べ参加者数62名

■生涯学習フェスティバル

第10回大阪市生涯学習フェスティバルが大阪市生涯学習フェスティバル実行委員会主催（後援大阪市教育委員会他）により10月27日、28日の両日に大阪市八幡屋公園の大阪市中央体育館で開催された。教育委員会の依頼により、「わくわくミュージアム」コーナーに出展した。当館は「出張ネイチャースクエア」というテーマでワークショップを行うとともに、当館の普及活動と友の会をPRするためのパネル展示を行った。ワークショップでは実体顕微鏡による標本観察やドングリをつかった遊び、コンピュータ検索などを体験してもらい、多数の参加者を得た。

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入した。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよく理解者である「友の会」に委託し、会員より募集を行なっている。行事実施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっていることが示される。2001年度は、研修を延べ29回開催し、これを受講した人たちは延べ213名に達する。このことから研修制度は当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。行事当日には、延べ240名の補助スタッフに行事の運営を手伝っていただいた（行事を複数回実施

したり、行事当日のみ参加のスタッフも含まれるために、研修参加者数と異なっている）。

以下に補助スタッフ研修について、行事名、研修の開催日、場所、受講人数の順に略記する。なお、各行事の実施日については上述の普及行事の項を参照。

海への自然	5月27日	岬町	21人
ハムシ	1月13日	当館	3人
ハムシ	2月3日	当館	5人
ハムシ	2月10日	当館	6人
ハムシ（事後研修）	3月31日	高槻	6人
今できている地層（川編）	6月17日	柏原市	3人
今できている地層（海編）	9月30日	和歌山市	5人
ビルの化石・岩石	7月16日	大阪市内	3人
種子と果実のつくり	12月16日	当館	4人
植物園案内	4月8日	長居植物園	10人
植物園案内	5月20日	長居植物園	7人
植物園案内	6月3日	長居植物園	11人
植物園案内	7月8日	長居植物園	9人
植物園案内	8月5日	長居植物園	6人
植物園案内	9月2日	長居植物園	9人
植物園案内	10月7日	長居植物園	8人
植物園案内	11月4日	長居植物園	5人
植物園案内	12月2日	長居植物園	9人
植物園案内	1月6日	長居植物園	9人
植物園案内	2月3日	長居植物園	7人
植物園案内	3月3日	長居植物園	9人
植物園案内動物編	4月23日	長居植物園	13人
植物園案内動物編	6月3日	長居植物園	5人
植物園案内動物編	6月24日	長居植物園	5人
植物園案内動物編	10月11日	長居植物園	4人
植物園案内動物編	11月5日	長居植物園	7人
植物園案内動物編	1月7日	長居植物園	5人
植物園案内動物編	2月3日	長居植物園	5人
植物園案内動物編	3月17日	長居植物園	4人

ドキドキ子ども自然史ウォッチング

「学芸員体験コース」（中学生向け） 8月4日 3人

「博物館たんけんコース」（小学生向け） 1月6日 7人

Ⅱ. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。

今年度は友の会にとって、大きな変化の年であった。ひとつは、1974年以来友の会会長を務めていただいていた粉川昭平先生が2001年10月25日に亡くなられたことである(享年74歳)。もう一つは友の会を母体とする「特定非営利活動法人大阪自然史センター(以下、大阪自然史センター)」の設立が2001年9月に認証されたことである。2002年1月の総会において、大阪市立自然史博物館友の会は大阪自然史センターとの合流を決議して、大阪自然史センターの事業として運営されることとなった。

友の会では、博物館主催の行事とは別に、18回の行事を実施し、延べ1,182名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員との交流が行われている。また、「セミのぬけがらしらべ」では、都市公園におけるセミの発生について継続データの収集を行っている。会員の多様なニーズに応じていくためにも、今後行事などをますます充実させていく必要があると考えている。

■庶務

- 2001年度の会員数は1,866名(1年会員1,686名、半年会員158名、賛助会員22名)。前年度は1,952名(1年会員1,799名、半年会員133名、賛助会員20名)。2001年度賛助会員：浦野動物病院・浅井 彪・浅葉 清・大宮 文彦・小郷 一三・志村 研太郎・高井 悦子・高橋 明子・高橋 弘志・高橋 泰章・田村 芙美子・寺島 久雄・萩原 寛・長谷 美代子・浜田 弓・丸山 精一・山口 惇・山下 良寛・山本 章・大阪市立環境学習センター・(株)新興出版社啓林館、ほかの方々(順不同、敬称略)
- 6回の評議員会(定例5回、臨時1回)を開き、会の事業・庶務等について審議した。会長の逝去という緊急事態を受けて11月10日に臨時評議員会を開催して、西川副会長を次回総会までの会長代行として決定した。
- 昨年度総会で確認されたとおり、特定非営利活動法人「大阪自然史センター」設立の準備を進めた。2月10日の設立総会後に大阪府に申請、9月14日に認証があり、そ

の後設立手続きが完了した。2002年度総会(2002年1月27日開催)において、本会の規約を改正してこの法人の事業組織として活動していくことを決定した。それに先立ち Nature Study 誌を通じて法人に関する資料・情報を提供し(だいすけ・ミナコの NPO Q&A など)、意見を求めた。

- 11月4日に兵庫県三田市で開催された兵庫県立人と自然の博物館「ミュージアム・フェスティバル」に協賛出展した。

■役員

会長：粉川 昭平(2001年10月25日逝去)

副会長：西川 喜朗(2001年11月10日～2002年1月26日まで会長代行を兼任)・那須 孝悌

評議員：梅原 徹、浦野 信孝、桂 孝次郎、白木 江都子、杉浦 真治、田代 貢、鍋島 靖信、花岡 皆子、春沢 圭太郎、堀田 満、道盛 正樹、村井 貴史、六車 恭子、山下 裕子

会計監査：左木山 祝一・加納 康嗣

■事務職員

玄甫 貴子(大阪市教育振興公社嘱託職員)

■事業

1. 刊行・製作など

- (1) Nature Study 誌47巻1号(通巻560号)～12号(通巻571号)を発行。このうち1月号と7月号の表紙をカラー印刷とした。
- (2)「新・自然観察地図」北大阪編・南大阪編を出版した。レッドデータ生物のオリジナル絵はがきを製作した。「大阪の自然 Q&A」の増刷発行を行った。

2. 行事 18回の行事を実施し(中止はなし)、延べ1,182名の会員とその家族が参加した。

- (1) 総会 自然史博物館 1月28日(日) 207名
- (2) 春のつどい「博物館の50周年を祝う会」
自然史博物館 5月20日(日) 108名
- (3) 昆虫採集入門講座合宿 兵庫県波賀町音水周辺
6月9日(土)～10日(日) 37名
- (4) 友の会合宿「対馬」 長崎県峰町(対馬)周辺
8月10日(金)～12日(日) 60名
- (5)「韋公園セミのぬけがらしらべ」 韋公園
9月2日(日) 122名

(6) 友の会のタベ「レッドデータ生物」自然史博物館			
9月9日(日)	80名		(大阪市大), 松本 典子(大阪府大), 原田 美菜子(名城大), 舟津 潤(京都精華大), 木村 佳代, 清水 智美, 中尾 良子, 久形 陽子(大阪教育大), 淀 誠宏, 安田 尚人(滋賀県立大), 高石 尚子, 山田 文子(京都府大), 尾池 克俊, 齊藤 数典(追手門学院大), 酒井 恵理子(九州東海大), 木寺 法子, 吉村 享子, 脇田 悟寿, 松井 晋(琉球大)以上, 一般実習コース
(7) 対談「博物館むかし・いま」自然史博物館			
9月15日(土・祝)	130名		三宅 紗代, 石川 祥子, 富澤 亜矢子(京都橘女子大), 村上 奈未(奈良女子大学), 岡橋 亜矢(追手門学院大), 小澤 朋子, 齊藤 有里(大阪教育大), 久保 岳史(帯広畜産大学)以上, 普及教育専攻コース
(8) 月例ハイキング(第3日曜日)			
1月21日「孝子」	18名		
2月18日「多田銀山」	49名		
3月18日「河内長野市, 天見」	38名		
4月15日「茨木市, 竜王山」	52名		
5月20日(春のつどい)			
6月17日「近木川河口」	47名		
7月15日「笠置山, コケの観察」	50名		
8月19日「比良山琵琶湖バレイ」	23名		
9月16日「浜寺公園・セアカゴケグモ」	45名		
10月21日「友ヶ島」	32名		
11月18日「屯鶴峯」	56名		
12月16日「甲山」	28名		

3. その他の事業

- (1) 博物館のボランティア推進事業の委託を受け, 会員から募集した補助スタッフ・リーダーにより, 博物館行事の運営補助を行ない, 博物館事業に協力した。

Ⅲ. 博物館実習生の受け入れ

平成13年4月1日に博物館実習生の受け入れに関する運用方針を改訂し, これまで実施していた実習を「一般実習コース」として引き続き実施するとともに, 新たに「普及教育専攻コース」を設けた(56ページに新運用方針を掲載)。普及教育専攻コースは, 当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって, 企画・運営・まとめなどに参画する内容とした。

一般実習コース夏期: 8月29日～9月2日

一般実習コース秋期: 11月14日～18日

普及教育専攻コース夏期: 8月4日・5日・22日～24日

普及教育専攻コース冬期: 1月5日・6日・11日～13日

本年度は以下の36名の学生を受け入れた。

伊藤 朋子, 船越 真保, 回渕 直哉(京都教育大), 山本 啓晴(大阪学院大), 杉田 佳奈(麻布大), 鈴木 雅子, 弘中 紀子, 川上 景子, 蒔田 絵美, 竹内 保

平成13年度(2001年度)普及行事、特別展、特別陳列、友の会行事一覧表

行事月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
やさしい自然 かんさつ会	22. レンゲ畑	27. 海べのしぜ ん					8. バッタのオ リンピック 28. ドングリひ ろい		2. 化石さがし			
地域自然誌 シリーズ			3. 山中溪 23. 棚田川			30. 比良山	21. やまぶき溪 谷					
テーマ別 自然観察会	1. ハチのお家 I		24. チョウ・ガ の幼虫	1. 地層・川編 8. キノコ 22. ヒルの化石	5. ハチのお家 II ツバメのね ぐら		14. 地層・海編	17. びわこ虫		20. 湖北町の冬 鳥		
室内実習									16. 種子と果実 のつくり		3. 魚のからだ 10. ハムン	
野外実習			10. 鳥：ライオン センサス	22. 鳥：定点調 査					9. 鳥：水鳥の カウント			
植物園案内 (第1土曜)	7	5	2	7	4	1	6	3	1	5	2	2
植物園案内 動物・昆虫 (第2土曜)	28. 春の渡り鳥	12. 春のチョウ ウ	9. 繁殖してい る鳥	14. 植物園の花 にみる昆虫	25. 長居植物園 でライトトラッ プ	8. ダングムシ とワラジムシ	13. 秋の渡り鳥	10. 初冬の鳥	8. 冬越しの虫	12. 冬鳥	9. 冬鳥	23. 早春の植物 園の虫
自然史講座 (第2土曜)	14	12	9	14	11	8, 22	13	10	8	12	9	9
科学映画会	1. 2. 7. 8. 14. 15. 21. 22. 28. 29. 30	3. 4. 5. 6. 12. 13. 19. 20. 26. 27	2. 3. 9. 10. 16. 17. 23. 24. 30	1. 7. 8. 14. 15. 20. 21. 22. 29	4. 5. 11. 12. 18. 19. 25. 26	1. 2. 8. 9. 15. 16. 22. 23. 24. 29. 30	6. 7. 8. 13. 14. 20. 21. 27. 28	10. 11. 17. 18. 23. 24. 25	1. 2. 8. 9. 15. 16. 22. 23. 24	5. 6. 12. 13. 14. 19. 20. 26	2. 3. 9. 10. 11. 16. 17. 23. 24	2. 3. 9. 10. 16. 17. 21. 23. 24. 30. 31
特別行事					16-17. ドキド キ高校生 22-24. ドキド キ中学生 26. 同定会	2. 博物館実習 9. 特別普及講 演会	15. 博物館50周 年・自然史セ ンター設立記 念対談	4. 普及講座・ 花粉学会 14-18. 博物館 実習		13-14. ドキド キ小学生 20. 植物分類学 会関西普及講 演会	17. 地球科学講 演会(地学団 体研究会・産 業技術総研) 近畿地方の地 殻変動を読み 解く	17. 環瀬戸内ネッ トワークシン ポジウム
ジュニア自 然史クラブ	8. 博物館 29. シギ・チド リ観察会	3. ミーティン グ	17. 初谷	21. 磯観察	7. 博物館	24. ミーティン グ	7. 矢田丘陵	3. 三川合流	16. 化石	5. 韓殿	3. 尾陽池	21. ミーティン グ
教員向け 総合的な学 習教員研修		9. 16. 26. 30. 情報センター 内	3. 淀川河口	18. キノコ		15. セミの抜け 殻		24. 25. 火山灰		30. コンピュー ター	3. 河原の石こ ろ・地形	
展示	4/27 ← 標本集合展 → 5/27	6/9 ← 牧野展 → 7/22	8/4 ← レッドデーター展 → 9/24	10/6 ← からだ展 → 11/25	12/8 ← 木とのふれあい展 → 1/20	3/16 ← 岡村展						
月例ハイク (第3日曜)	15. 茨木市竜王 山	20. 春のつどい 博物館の50周年 を祝う会	17. 近木川河口	15. 笠置山・コ ケの観察	19. 比良山探訪 湖パレイ	16. 浜寺公園・ セアコケグ モ	21. 友ヶ島	18. 屯鶴峯	16. 甲山	20. 矢田丘陵	17. 奈良公園の 鳥・シカ・ム ササビ	17. 枚岡公園の キリガ
友の会		9-10. 昆虫採 集入門講座 「音水」			5. 合宿「対馬」 事前学習会 10-12. 友の会 合宿「対馬」	2. 初公園セミ ぬけがらしら べ				27. 友の会総会	24. 博物館の裏 庭ヒオトロープ	

環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会事業

平成12年度に引き続き、文部科学省（旧文部省）の科学系博物館活用ネットワーク推進事業に基づく委託事業として、当館の他、兵庫県立人と自然の博物館・倉敷市立自然史博物館・笠岡市立カブトガニ博物館・島根県立三瓶自然館・徳島県立博物館・高知県立牧野植物園・大阪市立自然史博物館友の会・倉敷市立自然史博物館友の会の7館園2組織が事業に参加し、このほか10館・団体の協力を得て実施した。

当館で実施した主な事業を以下に示す。なお、この事業の詳細については平成13年度事業報告として協議会事務局から出版されているのでそちらを参照されたい。

●市民参加による調査を支援

「アサギマダラ・マーキング調査マニュアル」を日・英・韓・中の4カ国語で作成・配布した。

●学校園の「総合学習」支援

友の会および学芸員が作成した「自然観察地図」の一部を学校園の校外活動の資料として配付。また教職員向けの研修会やネットワーク化（Teacher-Museum ネットワーク）を推進した。

●中高生の学習支援

「ジュニア自然史クラブ」を設立、中高生を対象とした行事を月1回程度実施した。詳細は普及行事の項参照。

●絶滅危惧生物に関する情報交換

レッドデータ生物展に関連して情報交換を行った。

●インターネット GIS システム「環瀬戸内いきものマップ」の開発

大阪市立自然史博物館および兵庫県立人と自然の博物館の所蔵標本・文献上の分布情報を元に、インターネットを介して利用でき、地図上に生物の記録を表示するシステムを開発した。インターネットを介して共同で利用できるシステムとして、倉敷市立自然史博物館・徳島県立博物館のデータベースに接続するための拡張を行った。

また、これらの事業の総括として広島市中区のJAホールにおいて2月24日に「講演とフェスティバル 瀬戸内の自然—自然史博物館で学ぶあなたの町の自然」を開催し、約400名の来場者を得た。当日のプログラムを以下に示す。

「講演とフェスティバル 瀬戸内の自然—自然史博物館で学ぶあなたの町の自然」

【A会場】

シンポジウム：聞いて学ぼう「瀬戸内地域の自然」

午前（10：30－11：30）

（10：30－16：00）

開会挨拶 中国新聞社

講演「瀬戸内の海のいきもの」

稲葉明彦（広島大学名誉教授）

講演「田んぼの生き物を見つめてみよう—中国・四国地方における農耕地生態系保全の重要性」

日鷹一雅（愛媛大学）

午後（13：00－16：00）

講演「環瀬戸内を結ぶ博物館ネットワーク」

那須孝悌（大阪市立自然史博物館）

パネルディスカッション「博物館のある社会」

司 会 中瀬 勲（兵庫県立人と自然の博物館）

パネラー

坂本 充（広島市森林公園昆虫館）

平山琢朗（広島県に自然史博物館をつくる連絡協議会）

桥田 勲（中国新聞社）

山西良平（大阪市立自然史博物館）

【B会場】

たのしく遊んでたのしく学ぶ、自然史博物館を体験してみよう「移動はくぶつかんフェスティバル」

出展者：伊丹市昆虫館、愛媛県総合科学博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立自然史博物館友の会、岡山コケの会、笠岡市立カブトガニ博物館、きしわだ自然資料館、倉敷市立自然史博物館、倉敷市立自然史博物館友の会、三田市立有馬富士自然学習センター、島根県立三瓶自然館、徳島県立博物館、鳥取県立博物館、兵庫県立人と自然の博物館、広島県自然史研究会、広島県に自然史博物館をつくる連絡協議会、広島市森林公園昆虫館、広島市安佐動物公園、広島県自然観察指導員連絡会、広島市植物公園、比和町立自然科学博物館・比婆科学教育振興会、ホシザキグリーン財団、高知県立牧野植物園、宮島自然史研究会、レッドデータブック近畿研究会、奥出雲多根自然博物館、面河山岳博物館、山口県立山口博物館（ポスターなどでの展示参加を含む）

主催：環瀬戸内地域（中国・四国地方）自然史系博物館ネットワーク推進協議会・中国新聞社

後援：広島県教育委員会・広島市教育委員会・比婆科学教育振興会

協力：広島市森林公園昆虫館・比和町立自然科学博物館・広島県に自然史博物館をつくる連絡協議会・他

デジタルミュージアムの推進事業

I. 事業の趣旨

約100万点の館蔵資料のデジタル情報をベースに、さまざまな工夫を凝らしたコンテンツを作成し、高度化したインターネット環境を通じてそれらを市民に発信することによって、博物館としての事業効果を飛躍的に向上させる。

大阪市立自然史博物館ホームページは1997年7月と、本市でも最も早く開設したホームページサイトのひとつである。自然史博物館の展示および催事情報にとどまらず、博物館の標本や学芸員の研究活動に関連した鳥・昆虫・植物などさまざまな情報を提供してきた。提供しているコンテンツは学芸員が館内のパソコンにより作成・提供している。しかし、日常業務の合間を縫った更新作業となっているため、音声や動画、操作に応じて動くアニメーションなどの、作成に時間・手間・高度な知識を要する要素の作成が行えない。結果として、ホームページ初心者を引きつけ、演出する「遊び」の要素に欠けている。また、館内の展示室（花と緑と自然の情報センター）ではさまざまな生き物に関する学習資料を提供しているが、サーバーの能力から、動画のインターネットへの提供は現在見合わせている。本事業では、インターネット環境を改善、充実し、館蔵品等にもとづく質の高いコンテンツを広く一般市民や学校教育の場に提供しようとするものである。

本事業は大阪市の「いきいき大阪再生プラン」の一環として実施されるもので、人件費については国の緊急雇用特別基金を充当した。

II. 事業の概要

● デジタルアーカイブの蓄積・整備

標本情報のデータベース化（遡及入力）画像情報のデジタル化（遡及入力）

● インターネット環境の充実

各種ホームページデザイン更新

現在まで学芸員の手作業により作成してきたホームページの中から、必要性の高いものから順次、専門的な能力を有する人材に委託してデザインを更新していく。

● 各種情報提供事業コンテンツの作成

バーチャル展示室

展示物の写真、解説パネルなどをデジタル化し、インターネットを通じて観覧できるようにする。

大阪の自然情報

標本だけでなく、さまざまな機関・団体が保有している自然情報を系統的に収集し、分野別にデジタル化、整備していく。

館出版物のPDF化

博物館が行った観察会の資料や博物館友の会の会誌「Nature Study」などの出版物（紙媒体）により公開されているが、すでに入手困難になっているものも多く、活用することが難しい。これらを順次PDF化し、インターネットを通じて閲覧できるようにする。

● 「いきものマップ」充実事業

収蔵標本に基づくデータを、公開中の「いきものマップ」に取り込むために、採集地情報を緯度・経度または標準メッシュコードにより登録し直す。

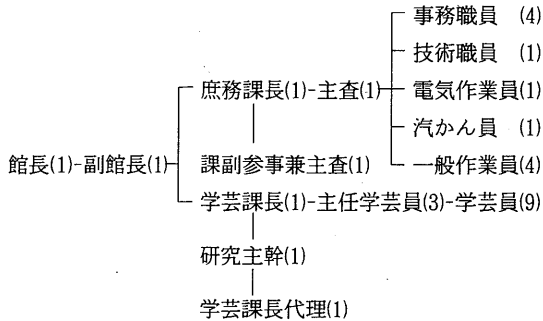
I. 沿革

昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下において展示開設
 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定
 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録(第2号)
 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任(39. 7. 4 退任)
 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目(元靱小学校校舎改造)に移転
 昭和33年1月13日－開館
 昭和34年－新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
 昭和39年－日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定(文部省)
 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任(非常勤嘱託－40. 7. 31 退任)
 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任(58. 6. 1 退任)
 昭和42年－大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
 昭和44年8月－新館建設のための基本構想審議委員会組織
 昭和45年4月－自然史博物館建設委員会組織
 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工
 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工
 昭和48年4月1日－旧館閉館
 昭和48年7月－新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結(竣工49年3月)
 昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布
 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行
 昭和49年4月27日－開館
 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任(非常勤嘱託－

61. 3. 31 退任)
 昭和59年6月－常設展更新基本計画案策定
 昭和60年3月－常設展更新計画書策定
 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成
 昭和61年4月1日－新装開館
 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任(兼務－2. 3. 31 定年退職)
 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任(非常勤嘱託－2. 3. 31 退任)
 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任(非常勤嘱託－3. 3. 31 退任)
 平成2年度－文化施設整備構想調査
 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任(非常勤嘱託－5. 3. 31 退任)
 柴田保彦 館長兼学芸課長に就任(4. 3. 31 定年退職)
 平成3・4年度－自然史博物館整備構想調査事業
 21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任(非常勤嘱託－7. 3. 31 退任)
 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任(9. 3. 31 定年退職)
 平成7年度－自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
 平成8年度－展示更新基本設計及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任(嘱託－10. 3. 31 退任)
 平成9年度－展示更新実施設計及び増築にかかる基本・実施設計
 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任(13. 3. 31 退職)
 平成10年12月－花と緑と自然の情報センター建築工事着工
 平成13年3月－花と緑と自然の情報センター竣工
 平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任(非常勤嘱託)
 平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館式挙行
 花と緑と自然の情報センター開館

II. 組 織

■職員数（平成14年3月31日現在）計31名



■職員名簿（平成14年3月31日現在）

職 種	氏 名	職 種	氏 名
館 長	那須 孝悌	学芸課長	岡本 素治
副 館 長	嵯峨山淳二	研究主幹	樽野 博幸
庶務課長	米坂 和芳	学芸課長代理	山西 良平
庶務課副参事主査	村上 達之	主任学芸員	石井 久夫
庶務課主査	奥田 亮子	〃	金沢 至
事務職員	長谷 豊英	〃	川端 清司
〃	和田 健治	学芸員(植物)	藤井 伸二
〃	中野 剛志	学芸員(動物)	波戸岡清峰
〃	西田 良司	学芸員(地史)	塚腰 実
技術職員	谷 勝文	学芸員(昆虫)	初宿 成彦
汽かん員	吉田 義昭	学芸員(動物)	和田 岳
電気作業員	阪口 忠義	学芸員(植物)	佐久間大輔
一般作業員	古岡 武	学芸員(四紀)	石井 陽子
〃	田端 健二	学芸員(四紀)	中条 武司
〃	木嶋 正弘	学芸員(昆虫)	松本吏樹郎
〃	小池 伸		

■人事異動

平成13年4月1日 那須 孝悌 嘱託館長に就任
 泉澤 英男 科学館へ転出
 米坂 和芳 教育振興公社より転入
 阪口 忠義 婦人会館より転入
 小池 伸 中央青年センターより
 転入
 4月18日 木村 玲子 生涯学習課へ転出
 奥田 亮子 天王寺区役所より転入
 6月28日 長谷 豊英 学務課より転入
 清水久美子 給与課へ転出

平成14年3月31日 村上 達之 定年退職
 西田 良司 定年退職
 古岡 武 定年退職

III. 庶務日誌

■平成13年度 博物館関係者来訪

13. 4. 29 宮崎県総合博物館職員2名
 展示計画等についての視察
 13. 12. 11 秋田県立博物館職員3名
 分類展示・展示企画等についての視察
 14. 2. 20 山梨県立八ヶ岳少年自然の家職員3名
 施設の管理運営状況等についての視察
 14. 2. 20 岡山県郷土文化財団岡山県自然保護セン
 ター研究員1名 自然観察会等についての
 視察

■館長受嘱委員

島根県三瓶埋没林調査保存（三瓶自然館展示更新）検討
 委員会委員長：

平成11（1999）年度～平成14（2002）年度

河内長野市文化財保護審議会委員（河内長野市教育委員
 会発令）：

平成12（2000）年11月1日より

文部科学省委嘱「博物館運営の活性化・効率化に資する
 評価の在り方に関する調査研究」委員会委員及び専門委
 員：

平成13（2001）年12月21日～

平成14年（2002）年3月

IV. 決算

■平成11年度～平成13年度（人件費を除く）

（単位 千円）

		事 項	平成11年度 決 算	平成12年度 決 算	平成13年度 決 算
歳入	第1部	入 館 料 ほ か	12,432	14,438	20,629
		雑収（展示解説等売却代）	1,760	1,815	3,045
		国 庫 補 助 金	0	0	0
	第 1 部 計		14,192	16,253	23,674
歳出	第1部	常 設 展 覧 事 業	2,594	3,599	2,632
		特 別 展 覧 事 業	5,911	6,347	49,066
		調 査 研 究 事 業	8,707	7,689	13,254
		資 料 収 集 保 管 事 業	5,295	5,280	3,727
		普 及 教 育 事 業	2,822	3,753	2,195
		充 実 活 性 化 事 業	3,051	3,206	3,798
		一 般 維 持 管 理 費	66,383	77,898	125,561
		小 計	94,763	107,772	200,233
	第2部	館 蔵 品 整 備 事 業	15,860	12,000	12,000
		寄 贈 標 本 整 理 事 業	0	3,860	3,975
		デジタルミュージアムの 推 進 事 業	0	0	9,386
		研 究 機 器 整 備 事 業	0	9,716	2,192
		施 設 整 備 事 業 等	22,355	2,429	0
		自然史博物館増設「花と緑と 自然の情報センター」建設	984,397	2,363,297	500
		小 計	1,022,612	2,391,302	28,053
	第 1 部 ・ 第 2 部 合 計		1,117,375	2,499,074	228,286

V. 入館者数（平成13年度）

区分 月	有 料				無 料							計	開館 日数
	個 人		団 体		団 体					個 人			
	大 人	高・大	大 人	高・大	中学生	小学生	幼・保育園等	養護学校・他	団 体 引率者	中学生 以 下	優待・招待・その他		
(13) 4	5,484	291	184	0	265	5,295	141	59	363	7,311	4,767	24,160	27
5	7,462	469	202	0	790	20,402	2,001	253	1,570	8,844	8,687	50,680	27
6	5,274	215	6	187	228	494	1,451	124	271	3,610	4,933	16,793	26
7	5,769	560	20	743	4	11	461	0	54	3,743	6,607	17,972	26
8	6,074	1,407	0	0	25	0	173	12	23	8,680	6,345	22,739	27
9	4,502	433	40	30	560	504	168	0	70	4,605	5,798	16,710	26
10	4,587	228	3	72	649	12,907	766	327	1,025	4,895	6,336	31,795	26
11	4,214	432	239	0	2,319	1,634	1,399	197	413	4,895	5,440	21,182	26
12	2,971	90	0	66	346	52	522	0	74	7,924	4,613	16,658	23
(14) 1	5,208	152	0	0	15	137	830	40	161	13,183	8,344	28,070	23
2	2,201	109	0	0	84	223	95	13	39	2,216	1,888	6,868	24
3	5,514	199	103	0	102	203	1,508	30	179	8,389	4,380	20,607	27
計	59,260	4,585	797	1,098	5,387	41,862	9,515	1,055	4,242	78,295	68,138	274,234	308

■団体観覧内訳（平成13年度）

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	132	7,166	39	2,349	171	9,515
小 学 校	167	15,560	287	26,302	454	41,862
中 学 校	28	1,708	46	3,679	74	5,387
養 護 学 校・他	32	707	21	348	53	1,055
団 体 引 率 者		2,145		2,097		4,242
高 校 生	0	0	8	970	8	970
大 学 生	1	30	2	98	3	128
一 般（有料引率者含）		529		268	0	797
計	360	27,845	403	36,111	763	63,956

庶 務

■特別展入館者数（平成9年度～平成13年度）

種別 年度	個 人				団 体			合計	開催期間	日数	タ イ ト ル
	大 人	高・大	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大 人	高・大	中学生以下 他無料				
9	7,690	3,140	3,057	8,043	18	293	1,163	23,404	8. 2～ 9.28	50	海底の動物 ーベントスの世界ー
10	8,821	2,449	4,314	12,312	48	195	6,219	34,358	8. 1～10.11	61	都市の自然
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8. 7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～ 9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～ 5.27	28	50周年だよ！標本集合!!
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6. 9～ 7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8. 4～ 9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10. 6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12. 8～ 1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあい ワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～ 3.31	14	世界の蝶と甲虫

VI. 施設の利用状況

■会議室 平成13年度 19件

年月日	団 体 名	人数
13・ 4・ 8	大阪シニア自然大学	30
4・ 14	レッドデータブック近畿研究会	10
5・ 13	昆虫情報処理研究会	15
6・ 9	ヨシ研究会	10
6・ 23	レッドデータブック近畿研究会	10
7・ 14	レッドデータブック近畿研究会	10
7・ 21	昆虫情報処理研究会	10
8・ 17	野尻湖花粉グループ	10
9・ 30	昆虫情報処理研究会	30
10・ 15	鳥による種子散布研究会	10

年月日	団 体 名	人数
10・ 21	石友会	10
11・ 2～4	日本花粉学会	100
12・ 8	カヤツリグサ	10
12・ 9	近畿植物同好会	6
12・ 24	大阪自然史センター	15
14・ 1・ 20	近畿地学会	15
2・ 3	瓜破遺跡結果検討会	10
2・ 17	近畿植物同好会	10
2・ 23	昆虫情報処理研究会	15

■集會室 平成13年度 26件

年月日	団 体 名	人数
13・5・13	日本直翅学会	30
5・20	鱗翅学会	40
5・27	堀会(理科研究会)	20
6・26	兵庫県立淡路景観園芸学校	40
7・12	大阪府立夕陽丘高等学校	11
8・1	王子動物園	30
8・12	奈良植物研究会	30
9・12	大阪府高等学校生物教育研究会	30
9・30	日本甲虫学会例会	40
10・5	あやめ池博物館研修	30
10・15~17	鳥による種子散布研究会	30
11・2~4	日本花粉学会	100
11・25	野鳥の会大阪支部	30

年月日	団 体 名	人数
12・2	関西トンボ懇談会例会	40
12・9	日本甲虫学会	40
12・22~24	野尻湖花粉グループ	30
14・1・20	近畿植物同好会	50
2・2	ハムシ研究会	30
2・3	近畿植物同好会	30
2・10	関西トンボ懇談会	30
2・11	大阪湾海岸生物研究会	30
2・17	近畿植物同好会	21
3・10	近畿植物同好会	60
3・24	日本甲虫学会	40
3・30	日本直翅学会総会	30
3・31	関西トンボ懇談会	30

■実習室 平成13年度 20件

年月日	団 体 名	人数
13・5・3~6	野尻湖花粉グループ	20
8・18~19	野尻湖花粉グループ	20
8・25	大阪鳥類研究グループ	20
9・2	野尻湖花粉グループ	20
9・9	レッドデータブック近畿	20
9・16	野尻湖花粉グループ	20
9・30	朝鮮総合調査分析検討会	20
9・30	瓜破遺跡島遺構分析結果報告会	25
10・28	大阪鳥類研究グループ	20
11・2~4	日本花粉学会	100
11・25	双翅目談話会	20
12・2	大阪自然環境保全協会	40
12・22~24	野尻湖昆虫グループ	20
14・1・12	ハムシ研究会	20
1・20	野尻湖友の会	20
2・9	ハムシ研修	20
2・11	大阪湾海岸生物研究会	20
2・17	アサギマダラを調べる会	20
3・10	大阪鳥類研究グループ	20
3・24	双翅目談話会	20

■講堂 平成13年度 19件

年月日	団 体 名	人数
13・4・6	大阪自然環境保全協会	230
4・8	大阪自然環境保全協会	220
4・26	花と緑のまちづくり館	90
5・11	大阪自然環境保全協会	200
6・1	大阪自然環境保全協会	200
7・6	大阪自然環境保全協会	200
8・3	大阪自然環境保全協会	200
8・28	花と緑のまちづくり館	90
8・29	花と緑のまちづくり館	90
9・7	大阪自然環境保全協会	200
9・8	大阪シニア自然大学	100
9・16	日本自然科学写真協会	150
9・18	花と緑のまちづくり館	90
9・19	花と緑のまちづくり館	90
10・25	花と緑のまちづくり館	200
11・2~4	日本花粉学会	100
11・23	大阪府高等学校生物教育研究会	80
14・1・20	日本植物分類学会	120
3・12~13	全国科学博物館協議会	250

VII. 施 設

自然史博物館本館

■ 所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ 敷地面積 6,743.68㎡

■ 建築面積 4,392.67㎡

■ 延床面積 7,066.01㎡

■ 構 造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造

地下1階、地上3階

■ 主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
オリエンテーションホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第4展示室	100.00㎡	4.20m	
特別展示室	260.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第2収蔵庫	310.08	3.00m	
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書 庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m	
		(平均)	
普及センター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	

実習室	96.76㎡	2.70m
(管理用施設)	計	907.49㎡
館長室	36.54㎡	2.70m
副館長室	18.27㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
更衣室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
オリエンテーションホールエレベーター	7.00㎡	
倉 庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階 段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■ 階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■ 各室定員

講 堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	実習室……………	31人
展示室(1階)415人		展示室(2階)400人	
地 階……………	3人		

■ 工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ 総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円

・ 本体工事 (㈱竹中工務店)	4億9,200万円
・ 付帯工事	3億 300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費	
ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・ 第1展示室ディスプレイ (㈱日展)	2,200万円
・ 第2展示室ディスプレイ	
(㈱乃村工芸社)	2,500万円
・ 第3展示室ディスプレイ (㈱丹青社)	2,100万円
・ オリエンテーションホールディスプレイ	
(㈱電電広告)	600万円
・ 展示品購入費	3,200万円
・ 庁用器具、調査、研究用機器、	
資料保管用物品等	4,400万円
■ 国庫補助金・起債	
・ 国庫補助金	3,000万円 (47.10.13付交付決定)
・ 起 債	3億8,762万円 (47. 8.25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■ 所 在 地	大阪市東住吉区長居公園1番23号
■ 建築面積	3,507.00㎡
■ 延床面積	8,150.00㎡(うち自然史博物館 5,000.00㎡)
■ 構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造
	地下1階、地上2階塔屋付建物
■ 主要各室面積・天井の高さ	
(展示用施設)	計 1,403.763㎡
	(天井の高さ)
大阪の自然誌	638.82㎡ 4.20m
ネイチャーホール	764.95㎡ 7.00m
(研究用施設)	計 1,971.50㎡
準備室兼置場(1)	47.99㎡ 4.00m
準備室兼置場(2)	68.34㎡ 4.00m
冷蔵庫室	21.99㎡ 5.00m
資料前処理室	20.14㎡ 4.00m
一般収蔵庫	748.34㎡ 5.00m
特別収蔵庫	688.22㎡ 5.00m
液浸収蔵庫	323.48㎡ 5.00m
前室(1)	36.80㎡ 4.00m
前室(2)	16.20㎡ 4.00m
(普及教育用施設)	計 256.08㎡

自然の情報コーナー	111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス	39.22㎡	5.00m
実習室	105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計 937.36㎡	
総合監視センター	32.78㎡	5.60m
空調機械室	116.93㎡	6.50m
機械室	722.99㎡	5.60m
E V機械室	49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室	15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計 431.30㎡	
地下1階廊下	28.74㎡	3.00m
1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階 段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■ 階数別面積

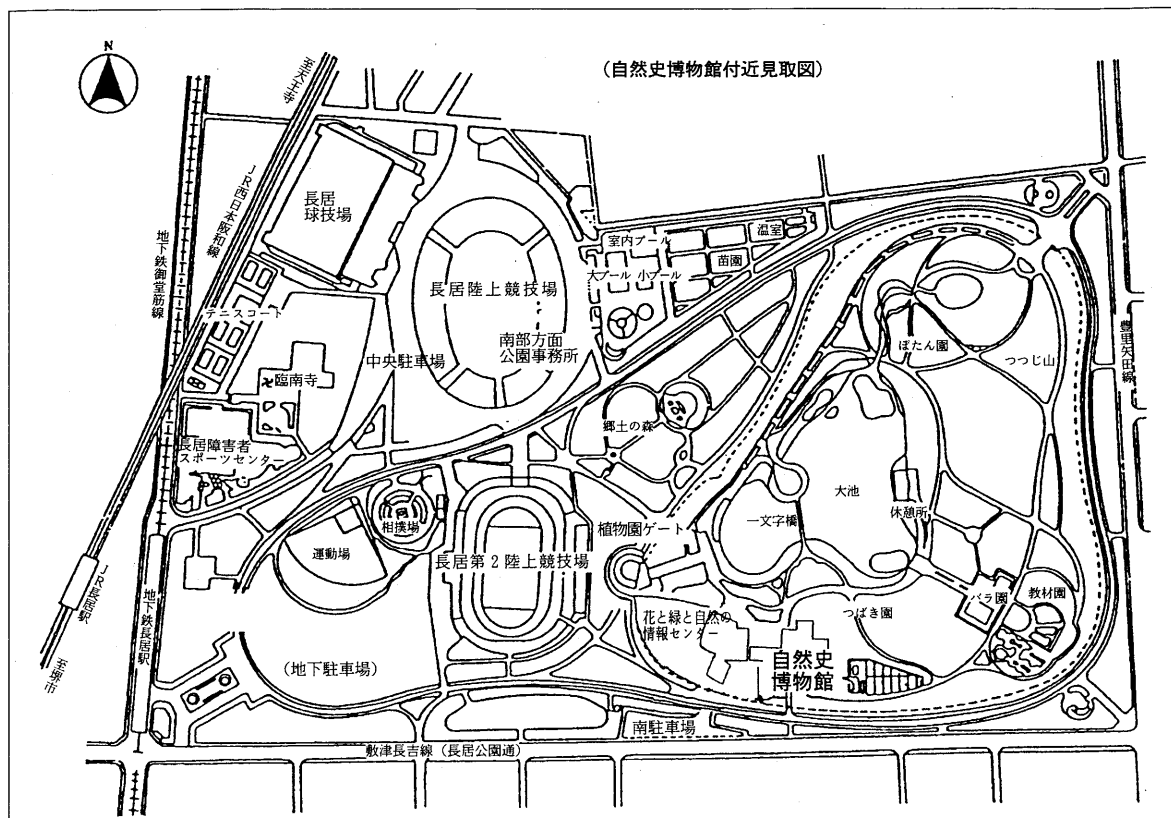
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■ 工 期 平成10年12月～平成13年3月

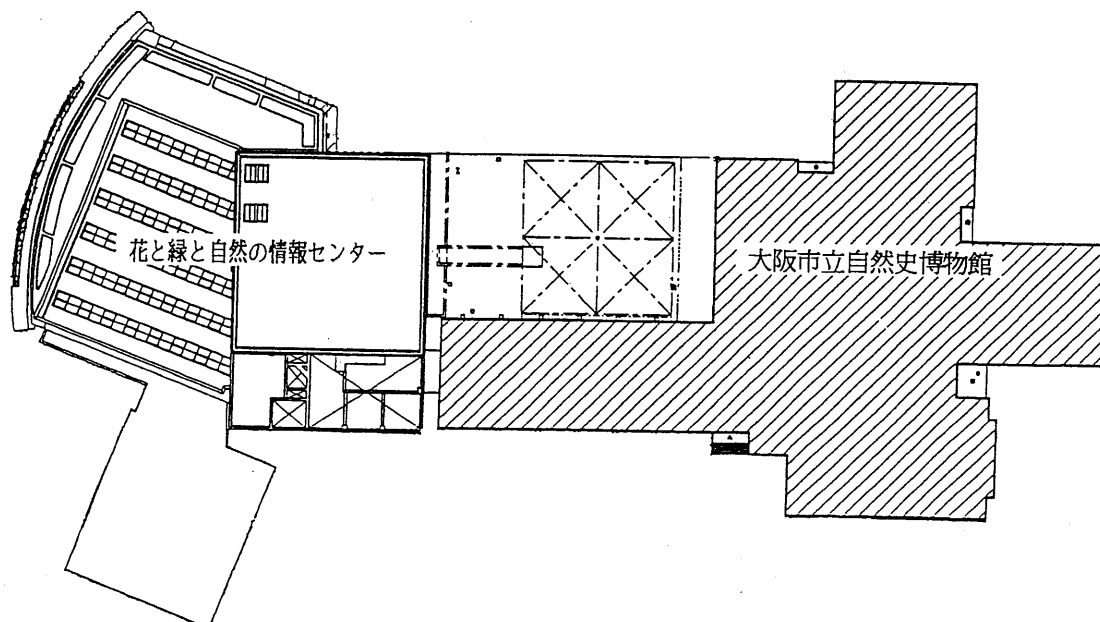
■ 総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■ 起債等

・ 起 債	34億7,477万3千円
・ 雑収(宝くじ協会)	3億6,001万7千円

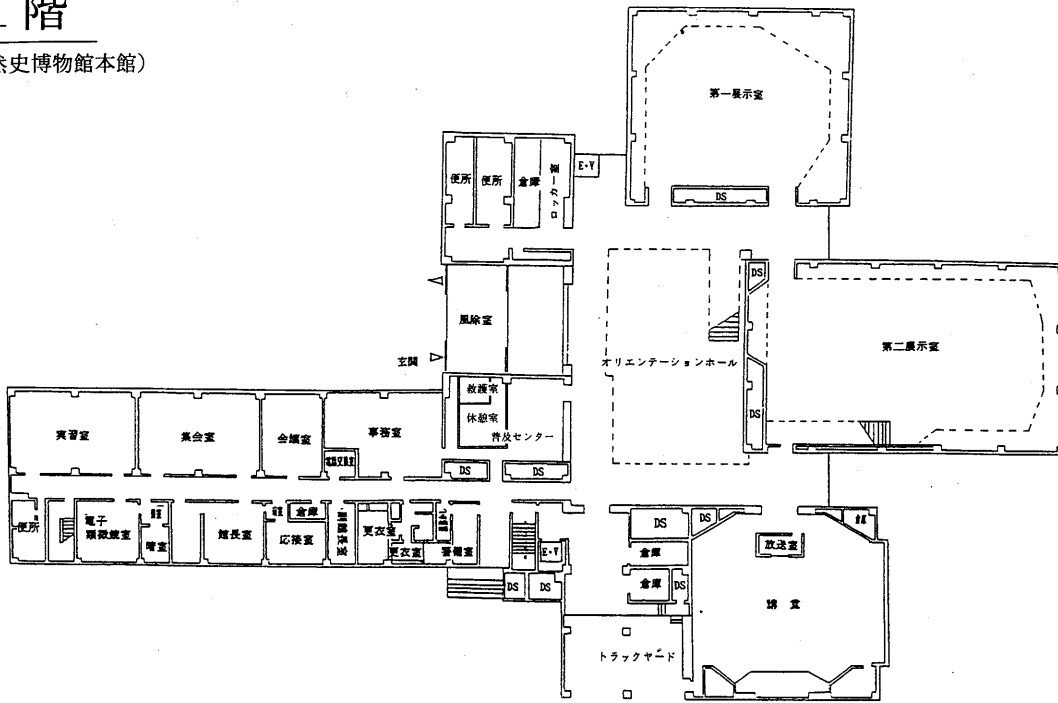


大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

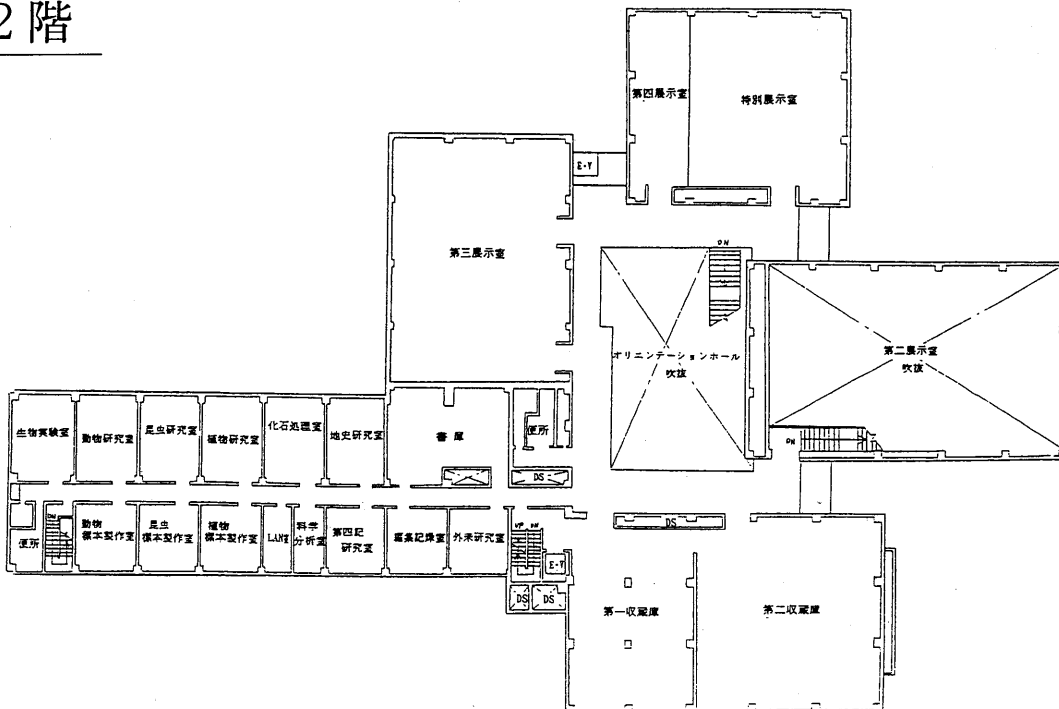


1 階

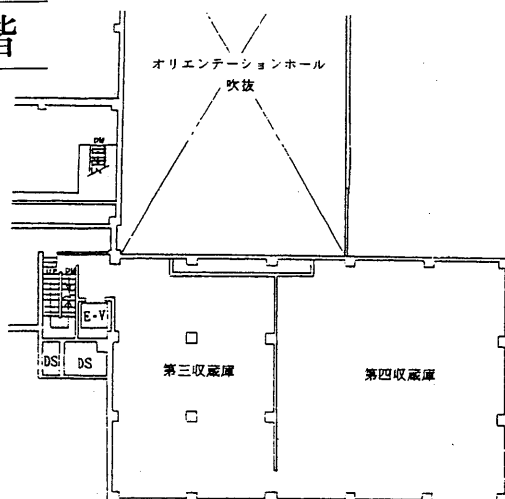
(自然史博物館本館)



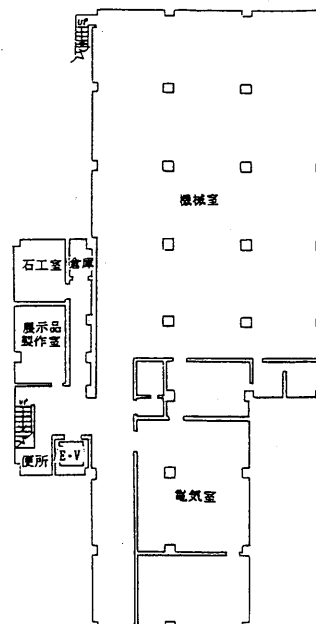
2 階



3 階

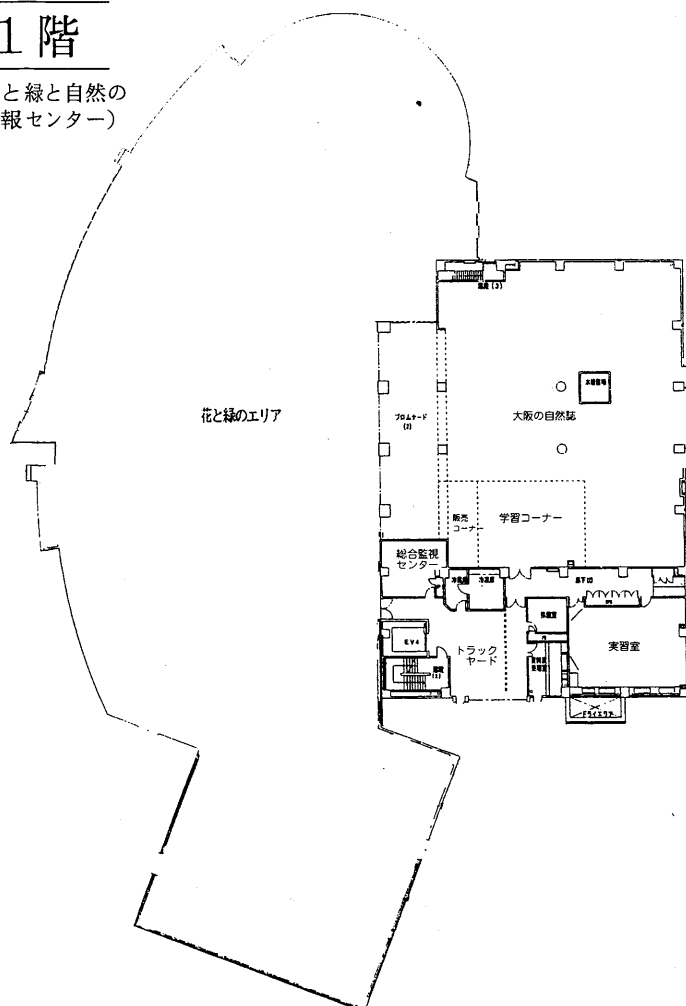


地下

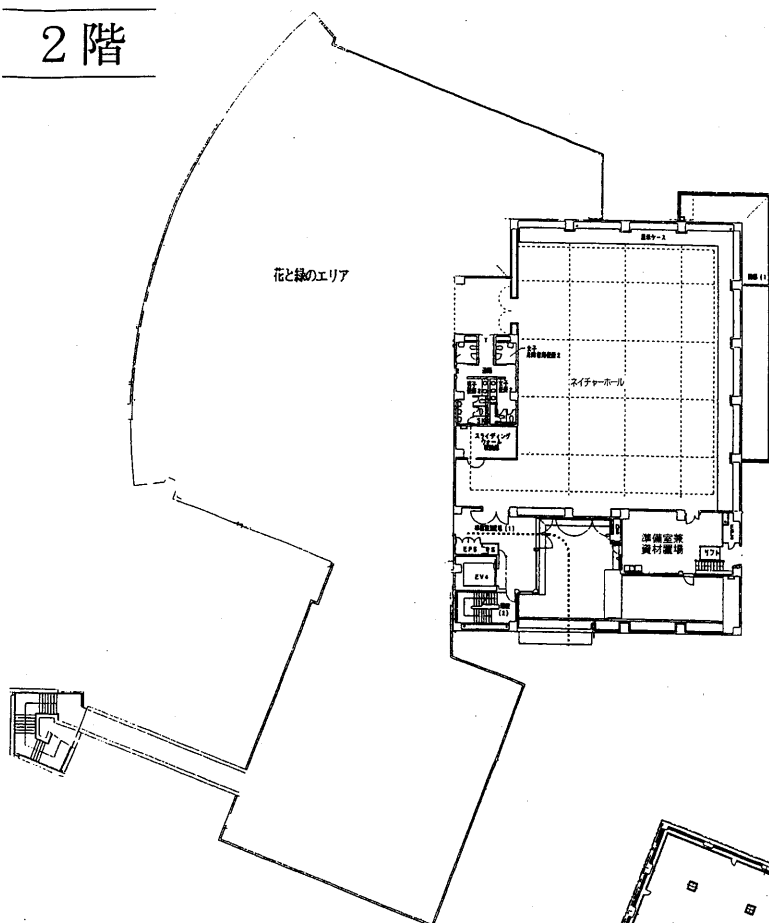


1 階

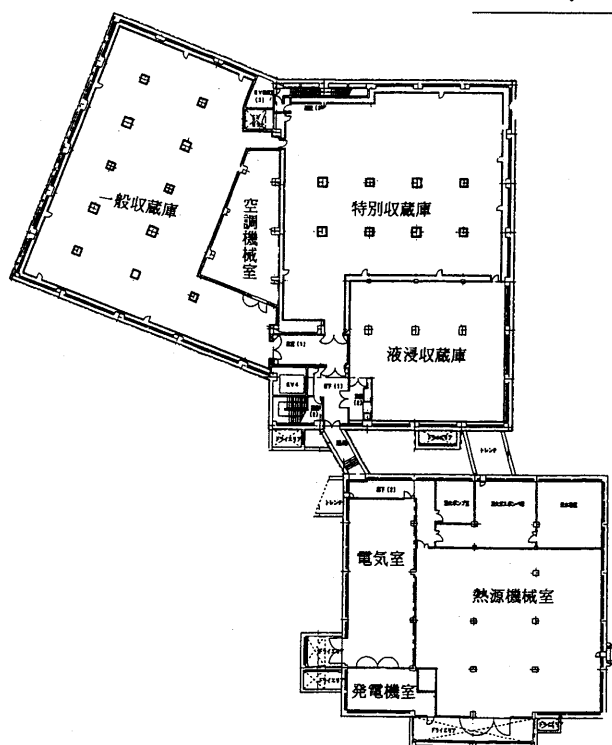
(花と緑と自然の
情報センター)



2 階



地下



○ 大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1 条例39

最近改正 平13. 4. 1 条例62

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館条例

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する科学について、資料を収集し、保管し、展示するとともに、その調査研究及び普及指導を行い、市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）の収集、保管、展示及び閲覧
- (2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究
- (3) 展覧会、講習会、実習会、研究集会等の開催及び指導
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導
- (5) 博物館資料の貸出及び交換
- (6) 他の博物館、学校、学会その他の関係機関との連絡及び協力
- (7) その他の必要な事業

（観覧料）

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付しなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第22条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒は、この限りでない。

2 常設展示場の観覧料は、1人1回につき、次の表に掲げる金額の範囲内で教育委員会が定める。

区 分	観覧料
高等学校、大学その他教育委員会の定める教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

3 特別展示室の観覧料は、1人1回につき、1,200円以内で教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第5条 自然史に関する科学についての展覧会、講演会、講習会その他に関し、博物館の特別展示室又は講堂を使用しようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、1日につき、次の各号に掲げる施設の区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内で教育委員会の定める額の使用料を前納しなければならない。

(1) 特別展示室 32,000円

(2) 講堂 17,000円

3 使用者が附属設備を使用しようとするときは、教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料の減免）

第6条 教育委員会が公益上その他必要と認めるときは、観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料の還付）

第7条 既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、その全部又は一部を還付することがある。

（職員）

第8条 博物館に、館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

第9条 この条例の施行について必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則（昭49. 4. 2 施行、告示120）

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則（昭51. 4. 1 条例61）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭55. 11. 27 条例48）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭56. 4. 1 条例53）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（昭61. 4. 1 条例50）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平4. 4. 1 条例58）

この条例は、公布の日から施行する。

附 則（平7. 3. 16 条例40）

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則（平13. 4. 1 条例62、平13. 4. 27 施行、告示491）

この条例の施行期日は、市長が定める。

○ 大阪市立自然史博物館規則

制 定 昭49. 4. 26 (教) 規則12

最近改正 平13. 4. 27 (教) 規則20

大阪市立自然科学博物館規則（昭和32年大阪市教育委員会規則第16号）を次のように改正する。

大阪市立自然史博物館規則

（開館時間）

第1条 自然史博物館（以下「博物館」という。）の開館時間は、午前9時30分から、午後4時30分までとする。
ただし、都合により変更することがある。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、都合により変更し、又は臨時に休館することがある。

- (1) 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）にあたる場合は、その翌日。
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

（入館の制限）

第3条 次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることがある。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 資料又は施設を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他教育委員会が管理上支障があると認める者（観覧）

第4条 博物館の常設展示場又は特別展示室に入場しようとする者は、観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2 観覧券の交付は、閉館時刻の30分前までとする。

（観覧料）

第5条 大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）第4条第2項の規定による観覧料は、1人1回につき、次表のとおりとする。

区 分	観覧料
高等学校、高等専門学校及び大学並びにこれに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

2 条例第4条3項の規定による観覧料は、1人1回につき、1,200円以内でその都度教育長が定める。

（使用許可の申請）

第6条 条例第5条第1項の規定により特別展示室又は講堂（以下「施設」という。）の使用許可を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載してこれを教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名及び住所又は勤務先（団体にあっては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (2) 使用の日時
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 特別の設備をしようとするときは、その内容
- (6) 入場者の予定人員
- (7) 入場料その他これに類する料金を徴収するときは、その金額
- (8) その他教育委員会が必要と認める事項

2 前項の規定により申請した事項を変更しようとするときは、あらかじめ許可を受けなければならない。

3 第1項の申請書は、次に定める期間内に提出しなければならない。ただし、教育委員会が特別の事由があると認めるときは、この限りでない。

- (1) 特別展示室の使用許可 使用期日の6月前の日から30日前まで
 - (2) 講堂の使用許可 使用期日の3月前の日から7日前まで
- （使用の制限）

第7条 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用を許可しない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 営利を目的とするとき
- (3) 建物、附属設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき
- (4) 管理上支障があるとき
- (5) その他教育委員会が不相当と認めるとき

2 次の各号のいずれかに該当するときは、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることがある。

- (1) 偽りその他不正の手段により条例第5条の許可を受けたとき
- (2) 前項各号に定める事由が発生したとき
- (3) 条例又はこの規則に違反し、条例又はこの規則に基

づく指示に従わないとき

(使用料)

第8条 条例第5条第2項に規定する使用料は、別表第1のとおりとする。

2 条例第5条第3項に規定する使用料は、別表第2のとおりとする。

(観覧料等の減免及び還付)

第9条 観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）の減免及び還付は、教育長が行う。

2 観覧料等の減額又は免除は、次の各号に定めるところによる。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料から次に掲げる額を減額することがある。

ア 30人以上 50人未満の団体 観覧料の1割

イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割

ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 常設展示場に入場する者が長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料から長居植物園の入場料相当額を免除する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除する。

(資料等の利用)

第10条 資料及び施設の利用については、教育長が定める。

(損害賠償)

第11条 資料又は施設を損傷又は滅失させた者は、教育委員会の指示によりこれを現状に復し、代物を弁償し、又はその損害を賠償しなければならない。

(資料等の寄贈及び寄託)

第12条 博物館に、資料等を寄贈若しくは寄託し、又は寄託物の返還を請求しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

(寄託資料等の取扱い)

第13条 寄託を受けた資料等は、特別の契約がある場合のほか、本市所有のものと同じ取扱いをする。

(寄託資料等の免責)

第14条 寄託を受けた資料等が、災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合、本市は損害賠償の責めを負わない。

(施行の細目)

第15条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和49年4月27日から施行する。

附 則（昭51. 4. 1（教）規則15）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭56. 4. 1（教）規則17）

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（昭61. 4. 1（教）規則10）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平元. 4. 1（教）規則9）

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平4. 4. 1（教）規則24）

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については、この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平5. 4. 1（教）規則3）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平7. 4. 1（教）規則18）

この規則は、平成7年5月1日から施行する。

附 則（平13. 4. 27（教）規則20）

この規則は、公布の日から施行する。

別表第1（第8条関係）

区 分	使 用 料		
	午 前	午 後	全 日
特別展示室			32,000円
講 堂	7,000円	10,000円	17,000円

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで、「午後」とは午後1時から午後4時30分まで、「全日」と

は午前 9 時30分から午後 4 時30分までとする。

別表第 2 (第 8 条関係)

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別 展示室	冷房設備			16,000 円
	暖房設備			16,000 円
講 堂	冷房設備	3,500 円	5,000 円	8,500 円
	暖房設備	3,500 円	5,000 円	8,500 円
	拡声装置	1 式 午前、午後各 1 回につき 1,800 円		
	マイク	1 式 午前、午後各 1 回につき 500 円		
	ワイヤレス マイク	1 式 午前、午後各 1 回につき 1,100 円		
	テープレコーダー	1 台 午前、午後各 1 回につき 900 円		
	スライド映写機 (スクリーン付)	1 台 午前、午後各 1 回につき 1,300 円		
	16 ミリ映写機 (スクリーン付)	1 台 午前、午後各 1 回につき 4,200 円		
	ビデオ装置	1 式 午前、午後各 1 回につき 2,200 円		

備考

この表中「午前」とは午前 9 時30分から正午まで、「午後」とは午後 1 時から午後 4 時30分まで、「全日」とは午前 9 時30分から午後 4 時30分までとする

○ 大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭49. 4. 27

最近改正 平13. 4. 27

(趣旨)

第1条 この要綱は、大阪市立自然史博物館規則(昭和49年大阪市教育委員会規則第12号。以下「規則」という。)第9条第2項第3号の規定による観覧料及び使用料(以下「観覧料等」という。)の減額及び免除に関し必要な事項を定めるものとする。

(観覧料の減額及び免除)

第2条 規則第9条第2項第3号による常設展示場及び特別展示室(以下「展示場」という。)の観覧料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 教職員が、盲学校、聾学校又は養護学校の高等部の生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員及び生徒の観覧料を免除する。
- (2) 教職員が、幼稚園(これに準ずるものを含む。)、小学校(これに準ずるものを含む。))又は中学校(これに準ずるものを含む。))の園児、児童又は生徒を引率して展示場に入場するときは、当該教職員の観覧料を免除する。
- (3) 社会福祉施設(生活保護法(昭和25年法律第144号)第38条第1項、児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条、老人福祉法(昭和38年法律第133号)第5条の3、身体障害者福祉法(昭和24年法律第283号)第5条第1項又は知的障害者福祉法(昭和35年法律第37号)第5条第1項に規定する施設をいう。以下同じ。)の職員が、入所者(社会福祉施設に入所している者をいう。以下同じ。))を引率して展示場に入場するときは、当該職員、入所者及び入所者に同伴する入場者で当該入所者の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (4) 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保険福祉手帳、知的障害者(児)認定カード、戦傷病者手帳又は被爆者健康手帳(以下「身体障害者手帳等」という。)の交付を受けている者がこれを提示したときは、本人及び本人に同伴する入場者で本人の介護を行うものの観覧料を免除する。
- (5) 大阪市内に居住する者で65歳以上のものが、本市が発行したツルのマークの健康手帳又は敬老優待乗車証を提示したときは、観覧料を免除する。

2 前項第1項から第3項までの規定により観覧料の免除

を受けようとする者は、利用期日の当日までに第1号様式による大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(使用料の減額及び免除)

第3条 規則第9条第2項第3号による特別展示室及び講堂並びに附属設備の使用料の減額及び免除は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 博物館が共催する行事で、学術振興又は普及教育に資すると認められるもの
- (2) 博物館の事業と関連を有する自然史に関する科学についての講演会、講習会その他で、学術振興に資すると認められるもの
- (3) 大阪市立自然史博物館友の会が主催する行事
- (4) 博物館法施行規則(昭和30年文部省令第24号)第1条の規定に基づく博物館実習

2 前項各号の規定により使用料の免除を受けようとする者は、規則第6条第1項による申請書を提出するときに第2号様式による大阪市立自然史博物館使用料減免申請書を教育長に提出しなければならない。

(その他の減免)

第4条 前2条に定めるもののほか、教育長が公益上その他特別の事由があると認めるときは、観覧料等を減額又は免除することがある。

附 則

この要綱は、平成13年4月27日から施行する。

自然史博物館に団体入館の時に入口で渡してください

様式 1

自然史博物館 使用欄	
決裁	課長
主査	係員

障害者・中学生以下の学校団体等引率者用

大阪市立自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会教育長 様

申請者 校 園 名
(団体名)
校 園 長 名
所 在 地
電 話

次の通り観覧料を免除下さるよう申請します。〔印不要〕

目 的	
日 時	年 月 日 () 午前・午後 時 分から
引率責任者氏名	
引率者(減免)人数	名
生徒・園児・障害者・他人数(学年)	名
合計人数	名
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第 6 条及び同規則第 9 条による。

大阪市立自然史博物館使用料減免申請書

様式 2

大阪市教育委員会教育長 様

平成 年 月 日

申 請 者 団 体 名
代表者名
住 所
電 話

下記の使用について、その使用料を免除下さるよう申請します。

使用年月日	平成 年 月 日 (曜日)	使用時間	午前 時 分～午後 時 分
使用目的		参加人員	人
種 別	数 量		
講 堂	午 前	午 後	全 日
付 属 設 備	冷 房 設 備		
	暖 房 設 備		
	拡 声 装 置		
	マ イ ク		
	ワイヤレスマイク		
	スライド映写機		
	16 ミリ映写機		
	ビ デ オ 装 置		

使用するにあたっては、大阪市立自然史博物館条例及び同規則を厳守し、かつ係員の指示に従い、使用中に発生した一切の責任は、当方において負うことを誓約します。

注意事項

使用時間

午前…午前 9 時30分～正午
午後…午後 1 時～午後 4 時30分
全日…午前 9 時30分～午後 4 時30分
(準備と後片付けの時間は使用時間に含まれます。)

自然史博物館 使用欄	
決裁	課長
主査	係員

○ 博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館

制定 平成7年2月1日

改訂 平成13年4月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期(7月～9月)・秋期(10月～11月)・冬期(12月～1月)の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間40名程度とする。ただし、一大学については各期あたり5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し(一般教養でも可)、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、一般実習コース、普及教育専攻コースにわけて実施する。
 - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
 - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾伺文書を、当該年度の4月末までに、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。

なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または

学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

(補足)

受け入れ学生数は、一般実習コースは各15名、普及教育専攻コースは各5名程度とする。博物館実習生受入れ依頼の内諾伺文書については、当該年度の4月1日～30日の間に当博物館に到着するように郵送すること。なお内諾伺文書については、公印は必要としない。

○ 建物並びに館内展示室の写真撮影等に
関する運用方針について

制 定 昭51. 12.
改 正 昭54. 7.
最近改正 昭62. 12.

(目的)

- この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。
ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

- 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
 - 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
 - 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
 - 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
 - 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
 - その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

(その他)

- 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

決裁	庶務課長	主 査	係 員
年			
月	学芸課長	主任学芸員	学 芸 員
日			

写真・テレビ撮影等許可願		平成 年 月 日
大阪市立自然史博物館長 様		
所 在 地		
会社・団体名		
代表者氏名印		
(担 当 者:)		
(電話番号:)		
次のとおり、写真・テレビ撮影等を許可くださるようお願いします。		
日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(テレビの場合) 放 映 日 時 番 組 名 タ イ ト ル (写 真 の 場 合) 掲 載 紙 名 記事タイトル 著 者 名 発 行 者 名 発 行 年 月 日		

写真・テレビ撮影等許可書		平成 年 月 日
様		
大阪市立自然史博物館 館 長		
平成 年 月 日付で申請のあった「写真・テレビ撮影許可願」について次のとおり許可します。		
日 時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
目 的		
撮影場所・資料等		
人数・使用機材		
(許可条件) (1) 入園・入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料を損傷させないこと。 (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。 (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。 (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。 (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。		

○ 外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制定 平成12年4月1日

第1条 (目 的)

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び会議室、集会室、実習室、講堂の部屋利用については別に定める。

第2条 (定 義)

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、当館の施設及び標本を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者とする。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、又は学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行おうとする者。

・ 共同研究員

当館の総合研究、グループ研究に参加する者。

第3条 (期 間)

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生・共同研究員

研究計画上必要と認められる期間。

第4条 (手続き)

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員（利用し

ようとする標本又は設備を管理する学芸員）から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票（様式1）に記入する。

(2) 長期利用者

長期利用を希望する者は、所属機関の長又は指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書（様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付）を館長あてに提出する。

なお、機関に属しない者については、直接の申請ができることとする。（様式3）。

申し込み期限は利用開始の前々月15日とする。（外来研究員については前年度2月15日）。

第5条 (許 諾)

前条の申し込みについての許諾は、館内の選考委員会による審議を経て、館長が決定する。

第6条 (経 費)

当館は、外来研究者の施設利用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については関係者で協議の上、決定する。

第7条 (報 告)

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない。

第8条 (成 果)

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物又はその複写物を館長に提出しなければならない。

第9条 (変更・中止)

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

第10条 (資格の取消し)

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

様式 1

No. _____

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決 裁	館 長	副 館 長	庶務課長	学芸課長	調査事務	係 員	学 芸 員

様式 3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

(本人)

住 所 _____

電 話 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	

様式 2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

(所属機関の長または指導教官)

所 属 機 関 _____

所 在 地 _____

電 話 _____

職 名 _____

氏 名 _____ 印

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 ・ 共同研究員 (○で囲む)
研 究 者	所属部局(部署)、職名(学生)、電話連絡先
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する設備・機器、 収蔵資料	



ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2001

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 Japan

Issued: March 31, 2003.